



2018 年度

(平成 30 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルプステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリス」

理事長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社 理事長

ヴォーリズ記念病院 管理者

三ッ浪 健一

2018 年度年報の発行に当たり、挨拶申し上げます。

2018年度には診療・介護報酬同時改定がありました。診療報酬改定では、2025年やそれ以降の人口構成の変化を踏まえ、急速に変化する医療ニーズに対応できるよう、あらゆる入院料の体系が再構築され、看護職員配置や平均在院日数などの「基本的な診療にかかる評価」（基本部分）と、重症患者割合や在宅復帰率などの「診療実績に応じた段階的な評価」（実績部分）の2階建ての構造になりました。回復期リハビリテーション病棟入院料1の実績部分には、リハビリ実績指数が37以上という厳しい実績要件が課されましたが、独立行政法人福祉医療機構が行った2018年度診療報酬改定の影響に関するアンケート調査によると、改定後の医業収益では、回復期リハビリテーション病棟での増収が目立ったとのことでした。

一方、介護報酬改定は2025年に向けた事業の方向性を提示するもので、医療ニーズへの対応や自立支援が求められ、医療ニーズに対応するため、医師などの関与が重点評価されました。介護老人保健施設では施設類型が大きく見直され、新しく導入された在宅復帰・在宅療養支援等指標が70点以上の「超強化型」が導入されました。独立行政法人福祉医療機構が行った2018年度介護報酬改定の影響に関するアンケート調査によると、旧・在宅強化型の半数を超える施設が超強化型へ移行したとのことでした。

このような情勢の中で、2018 年度に当院がどのような活動を行い、今後どのような病院にしていこうとしたのかについてまとめておくことは、当院の今後の発展のために大変有意義なことです。本年報をしっかりと分析していただいて、今後の発展へ向けた多くの提言がなされることを大いに期待しております。

院長挨拶

公益財団法人近江兄弟社

ヴォーリズ記念病院

院長 五月女 隆男

日頃よりヴォーリズ記念病院に携わっていただいている方々に感謝を申し上げますとともに、101年目の新スタートを切れましたことをありがたく思っております。

院長室から望めるツッカーハウスや礼拝堂はその凜とした佇まいのみならず、歴史の重みとともに、この地で療養された幾多の患者様に思いを馳せさせます。もちろん、常に時代のニーズに沿った医療を展開するだけでなく、100年間一貫して我々が胸に抱き続けた“こころ＝隣人愛”を誠実に実践することが当病院の使命であり、変化するものではありません。

現在の日本は在宅医療に重点をおいた医療政策により、病院運営にも流動性が求められています。急性期病院、亜急性期・回復期病院と、その役割がより明確になろうとしております。一方、医療を享受される患者様サイドでは、より分化・細分化した医療システムは判りにくい点が多々あることも事実です。このような時世であるからこそ、当院として外来・入院診療から在宅・訪問診療まで一貫した医療を提供する意味があるのではないのでしょうか。同じ疾病を罹ったとしても、同じ医療を提供することが最高の医療とはいえません。多々ある選択肢の中から、まさにその方の背景、環境、個性を考慮した医療が提供されるべきであり、医療の多面性の担保が重要な一面をなすのです。一人の患者様に対して、関係者全員が一致した考え方で接することで、不安なくその日を過ごしていただけるようにこれからも努力いたします。

これから当地域もますますの高齢化を迎えます。介護する家族も同様に高齢化し、その負担は増大する一方です。当院で担える役割はその一部ではありますが、各種のサービスと密に連携しながら、近江八幡圏域の一般診療所の先生方との連携をさらに強化し、これからも安心して暮らせる地域にしていきたいと考えております。

ヴォーリズ記念病院は善良な医療を実践する病院として、これからもみなさまのお役に立てることを喜びとしたいと思います。

基 本 理 念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

基 本 方 針

1. ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重する病院となる。
2. 一般急性期、回復期、慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが穏やかに「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
3. 地域住民の疾病予防・健康増進のため、医療・保健・福祉活動の拠点として開かれた病院となる。
4. 地域の医療機関、介護施設および地域包括支援センターとの連携を深め、在宅医療・介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する。また、在宅サービス部門との協働により、在宅看取りを可能にする病院となる。
5. 職員が大切にされ、夢・希望と意欲を持って、生き生きと働き続けることができる病院となる。

私 たち の ち かい

- 1 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2 私たちは、患者さんの誰にも笑顔で接します。
- 3 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4 私たちは、患者さんが穏やかに生を全うすることを支えます。
- 5 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

目 次

理事長挨拶

病院長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

基本理念 ・ 基本方針 ・ 私たちのちかい

1. 概要	ページ
沿革	1-4
病院の概要・病院の紹介・関連施設	5
施設基準	6
病院組織図	7
事業報告	8-11
2. 2018 年（平成 30 年）度 主な行事・出来事	12-15
3. 各部報告	
診 療 部 診療部 総括	16-20
医 局	21-23
診療技術部 診療技術部 総括	24-25
薬 局	26-27
放射線科	28
臨床検査科	29-31
栄 養 科	32-33
集団栄養指導	34

	リハビリテーション科	35-36
	メディカル フィットネスセンター ヴォーリス	37-38
	ME サービス室	39-41
看 護 部	看護部 総括	42-43
	1 病 棟	44-45
	2 病 棟	46-48
	3 病 棟	49-50
	緩和ケア病棟	51-52
	外 来 部 門	53-54
	在宅療養支援課	55-56
事 務 部	事務部 総括	57
	医 事 課	58-60
	管 理 課	61-64
	地域医療課	65-67
	医療情報管理課	68-72
	経営企画室	73-75
在宅療養支援部	在宅療養支援部 総括	76-77
医療安全管理室	医療安全管理室 総括	78-79
礼 拝 堂	礼拝堂 総括	80
在宅サービス部門	在宅サービス部門 総括	81
	訪問看護ステーション ヴォーリス	82-83
	ホームヘルプステーション ヴォーリス	84
	ヴォーリス 居宅介護支援事業所	85
	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリス」	86-87
	介護予防拠点事業活動報告	88

4. 委員会報告

委員会組織図	89-90
業務連絡・業務改善委員会	91
給与・規約プロジェクト委員会	92
自衛消防隊	93
安全衛生委員会	94
栄養管理委員会	95
臨床検査適正化委員会	96
医療安全管理委員会	97-98
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	99
里教育委員会	100-101
褥瘡対策委員会	102
ボランティア委員会	103
院内感染防止対策委員会	104
診療情報管理委員会	105
病院機能評価委員会	106
個人情報保護対策委員会	107
ワークライフバランス委員会	108
IT情報管理委員会	109
認知症ケア推進委員会	110
病院 100 周年記念誌委員会	111

概要



1918 (大正7年)	4月	本館竣工
	5月	近江療養院開院式挙行(25)
	6月	第1号患者入院(10)
1919 (大正8年)	3月	入院患者15名となる。
1920 (大正9年)	4月から渡米していたヴォーリズ帰幡 土産として近江療養院へ、X線撮影機一式とピアノ一台を持ち帰った。	
1922 (大正11年)	10月	入院患者30名となる。
1925 (大正14年)	8月	病棟9棟、総病床数50床となる。
1928 (昭和3年)	5月	調理室及び食堂新築着工
1929 (昭和4年)	4月	米国より蒸気消毒機、クレセント自動食器洗滌機到着
	6月	ボイラー据付。調理室及び食堂竣工。工費36,000円(8)
1931 (昭和6年)	2月	本館地階を研究室に改造
1932 (昭和7年)	6月	人工気胸術開始
	8月	横隔神経捻除術開 (阪大外科小沢凱夫教授来院)
1933 (昭和8年)	2月	島津製作所製レントゲン装置桂号設置される。(17)
	8月	看護師寄宿舍落成(8)
1934 (大正8年)	9月	浴室及び散髪室完成
1935 (昭和10年)	8月	新生館竣工
1937 (昭和12年)	4月	礼拝堂献堂式(2)
1941 (昭和16年)	7月	更生館竣工式(総病床数136床)
1945 (昭和20年)	7月	全院を陸軍に提供、全患者退院(1)
1946 (昭和21年)	7月	近江療養院を「近江サナトリウム」と改称
1947 (昭和22年)	4月	再開院
		記念館竣工
1950 (昭和25年)	8月	X線断層撮影装束設置
	12月	胸部成形術第1例行われる。(京大結研究所 長石忠三教授執刀)(6)
1951 (昭和26年)	1月	肺切除術第1例行われる。(患者は現検査技師長 富永潤氏)(27)
	7月	看護婦寄宿舍増築
1955 (昭和30年)	12月	ハイドブリンク型全身麻酔器、アメリカより購入
1956 (昭和31年)	9月	平和館竣工
1961 (昭和36年)	9月	栄光館を取壊し、跡地に第二平和館着工
1962 (昭和37年)	4月	第二平和館竣工(24)
	8月	日本レクリエーション協会からPEC優良団体として表彰される。(1)
	10月	衛生委員会が組織される(従業員数 が100名を超す)。(3) 優良集団給食施設として表彰される。(31)
1963 (昭和38年)	7月	防火用貯水池完成(1)
		MP型(502)全自動ボイラー火入れ式(18)
		D K型懸垂式脱水機設置

1964（昭和39年）	7月	ゼット式浄水装置設置、工費170万円(4)
1965（昭和40年）	3月	自動現像装置設置(1)
	9月	職員厚生ハウス竣工、応募作品中より“交友クラブ”と命名(16)
	11月	新横型断層撮影装置設置(1)
1966（昭和41年）	3月	新館起工式(7)
	12月	新館にて外来診療開始(8)
1967（昭和42年）	1月	新手術場開き(京大長石忠三教授御来院、御執力)(11) 新館竣工式(21)
	4月	循環器科開設(1)
	8月	看護婦寄宿舍増築竣工(7)
1971（昭和46年）	5月	ヴォーリズ記念病院と改称
1972（昭和47年）	2月	託児所開設(4)
	6月	開心術第1例行われる。(東京慈恵医科大学新井達太教授御執刀)(20)
	11月	X線TV装置設置
1974（昭和49年）	10月	更生館及び新生館に、酸素及び吸引のパイピングが設置
1977（昭和52年）	11月	更生館二階と記念館とを結ぶ渡り廊下完成 非常用自家発電装置設置
1979（昭和54年）	8月	滋賀県緊急医療情報システムに参加(1)
	12月	自動交換電話機導入
1980（昭和55年）	6月	新ボイラ設置(炉筒煙管KSボイラ)(26)
1987（昭和62年）	1月	消化器科開設(20)
	3月	全身用X線CT導入
	5月	心臓超音波診断装置導入
1991（平成3年）	5月	本館外来診察開始(27)
	6月	新基幹病棟（現本館）竣工(12)
	10月	別館改修工事完成(1) 許可病床数187床（一般100床、結核87床〈実働41床〉）
1992（平成4年）	12月	整形外科開設(2)
1993（平成5年）	3月	新看護婦寄宿舍シオン寮竣工(31)
	7月	夜間診療開始(毎週木曜日)(1)
	12月	訪問看護ステーションはちまん開設(13)
1994（平成6年）	2月	ターミナル委員会設置(7)
	4月	ヴォーリズ記念病院福堂診療所開設(13)
	7月	近江八幡市在宅介護支援センターヴォーリズ開設(1) 旧看護婦寄宿舍解体撤去、跡地に職員駐車場設置 許可病床数184床（一般100床、結核84床）
1995（平成7年）	5月	温冷配膳車導入。適時適温給食を開始(16)
	6月	第一回ヴォーリズ記念病院ターミナルケア講演会開催(25)
	7月	介護車導入 第二平和館を重度障害者施設「中部通園くすのき」に土地建物無償貸与 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」構想5ヵ年計画策定

1996（平成8年）	5月	新厨房棟竣工(10)
	11月	更生館、新生館、希望館、旧本館、旧厨房・食堂棟の解体 撤去
1997（平成9年）	3月	新託児所竣工(28)
	4月	リハビリテーション科開設(理学療法Ⅲ)(1) 訪問看護ステーションヴォーリズ開設(16)
1998（平成10年）	2月	政府管掌保険健康診断実施病院となる。
	3月	老人保健施設ヴォーリズ老健センター開設(1) 病院裏山治山（落石防護）5ヵ年事業開始
	5月	ヘリカルCT導入(10)
	6月	消化器内視鏡センター開設
	8月	ホームヘルパーステーションヴォーリズ開設(1)
1999（平成11年）	1月	在宅保健福祉総合化モデル事業実施
2000（平成12年）	4月	ヴォーリズ居宅介護支援事業所開設(1) 訪問リハビリテーション開設(1) 療養病棟60床竣工開設(介護療養型医療施設44床、長期療養型病床群16床)(10) 結核病棟閉鎖（82年間に亘る。） 許可病床数160床
	3月	平和館、第二平和館解体撤去
	7月	病院敷地を寄付し、ケアハウス信愛館建設開始(24)
	7月	10年間休んでいたチャペルの日曜礼拝再開(7)
2002（平成14年）	8月	訪問看護ステーションはちまん、ヘルパーステーションヴォーリズ、ヴォーリズ 居宅介護支援事業所が新館地下に移転。研修室を新館地下に新設(1)
	2月	患者憲章制定(1)
	3月	MRI検査開始(17)
2003（平成15年）	12月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し認定される。(15) ヴォーリズがんセミナー開始
2004（平成16年）	6月	毎週金曜日整形外科夜間診療開始(11)
2005（平成17年）	1月	すこやかフェスタ2005(30)
2006（平成18年）	1月	緩和ケア病棟起工式(17)
	3月	亜急性期入院医療管理料算定開始(10床)(1)
	10月	地域連携室開設(1) 緩和ケア病棟開院・献堂式(2) メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ開設(平和堂近江八幡店内)
	9月	病院機能評価受審(5) いきいきサロン ヴォーリズ開設 障害者病床認可
2007（平成19年）	4月	介護療養病床16床を医療療養病床に変換。医療療養病床60床(1)
	5月	平成20年度栄養関係功労者知事表彰受賞 栄養科(26)
	9月	病院機能評価受審(15) 訪問看護ステーション(はちまん&ヴォーリズ)が合併し「訪問看護ステーションヴォーリズ」となる。

2009（平成21年）	1月	ウォーターハウス記念館竣工式(14)
	3月	放射線科PACS稼働(2) 福堂診療所閉所(31)
	4月	障害者病棟50床閉床(30)
	5月	療養病床42床運用開始(1)
	8月	回復期リハビリテーション病棟開設(1)
2010（平成22年）	10月	病院機能評価付加機能（緩和ケア機能）受審、認定受ける。(26)
2011（平成23年）	2月	マルチスライスX線CT装置稼働
	4月	Dlco（肺拡散能力）検査が出来る総合肺機能測定装置採用
	8月	医事コンピューターの変更、自動再来器廃止
2012（平成24年）	2月	電子カルテ稼働(1)
	4月	睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診断に役立つ簡易PSG検査導入 一般財団法人から公益財団法人へ名称変更
2013（平成25年）	6月	新棟東館起工式(11)
	11月	第1回健康フェスティバル(10)
	12月	病院機能評価認定書受理(15) クランク導入 メンタルヘルス、ワークライフバランス取組 システム室開設
	1月	退職金積立制度確定拠出年金制度開始
	3月	新棟東館竣工式(29)
2014（平成26年）	4月	リハビリテーションセンター新棟東館3階に新設(1)
	5月	DPCシステム導入(26)
	7月	びわこメディカルネット運用開始(1)
	10月	亜急性期病床廃止、地域包括ケア病床新設(1)
	11月	メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ平和堂近江八幡店内閉鎖（ヴォーリズ老健センター内へ移設）
2015（平成27年）	10月	第2回健康フェスティバル(25) 障害児・者のリハビリテーション開始
2016（平成28年）	1月	療養病棟入院基本料1にランクアップ(1)
	10月	ホスピス10周年記念講演会(23)
	11月	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」起工式(19)
2017（平成29年）	3月	回復期リハビリテーション病棟入院料1にランクアップ(1)
	11月	ヴォーリズいのちのケア講演会(12)
	12月	電子カルテ、新システム「MIRAI's」稼働(1) 外来に再来機導入(1)
2018（平成30年）	1月	在宅療養支援部開設(1)
	9月	建築PJ委員会 発足(11)
	10月	病院機能評価付加機能（一般病院1・リハビリテーション機能・緩和ケア機能） 受審、認定受ける。(30. 31)

■ 病院の概要

所在地 : 滋賀県近江八幡市北之庄町 492
開設者 : 公益財団法人近江兄弟社
開設年月日 : 1918 年 5 月 25 日
病院長 : 周防 正史
病床数 : 168 床
診療科目 : 内科、消化器科、循環器科、脳神経外科、神経内科、糖尿病、外科、
呼吸器外科、整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、
緩和ケア科、物忘れ外来、乳腺外来、総合診療科、肛門科、
医師数 : (常勤) 7 人 (非常勤) 24 人
一日平均外来患者数 : 78 人
一日平均入院患者数 : 156 人

■ 病院の紹介

公益財団法人近江兄弟社は、創立者 W.M. ヴォーリズ(一柳米来留/ ひとつやなぎ めれる)のキリスト教の「隣人愛」と「奉仕」、の精神を基本理念として、近江八幡市北之庄の地に「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」を運営しています。ヴォーリズ記念病院を核にして、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟(県内唯一の独立型ホスピス)、医療療養型病床、老健センター、ケアハウス信愛館、その他各種の在宅介護サービス事業が有機的に連携し、高齢者へのシームレスなケアを総合的に提供しています。

また、在宅療養支援病院として地域医療を支えるため、医師、看護師、PT・OT・ST、薬剤師が訪問診療を行っています。平成 30 年 1 月より、入院から退院及び退院後まで、患者が切れ目無い医療・介護を受けられることを目的とし在宅療養支援部を創設しました。地域の診療所の先生方とも連携し、地域包括ケアシステムの中心を担える病院を目指しています。

■ 関連施設

公益財団法人近江兄弟社(ヴォーリズ記念館)
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ老健センター
社会福祉法人近江兄弟社地塩会 ケアハウス信愛館
中北部地域包括支援センター(近江八幡市委託事業)

■ 施設基準

厚生労働省告示に基づく『厚生労働大臣の定める揭示事項』は、下記の通りです。

入院基本料に関する事項

- 1、当院は、一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 5）を届け出ております。
- 2、当院は、療養病棟入院基本料 1（8 割以上）を届け出ております。
- 3、当院は、地域包括ケア入院医療管理料 1 を届け出ております。
- 4、当院は、緩和ケア病棟入院料 1 を届け出ております。
- 5、当院は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を届け出ております。

近畿厚生局長への届出に関する事項

当院では、次の施設基準に適合している旨の届出を行っています。

<基本診療料>

機能強化加算
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 5）
療養病棟入院基本料 1（8 割以上）
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
緩和ケア病棟入院料 1
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2（40：1）
急性期看護補助体制加算（25：1）
（看護補助者 5 割以上）
重症者等療養環境特別加算 2
療養病棟療養環境加算 1
栄養サポートチーム加算
後発品医薬品使用体制加算 1
感染防止対策加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 1
入退院支援加算 1
認知症ケア加算 2
医療安全対策加算 2
看護職員夜間配置加算 16 対 1 配置加算 2

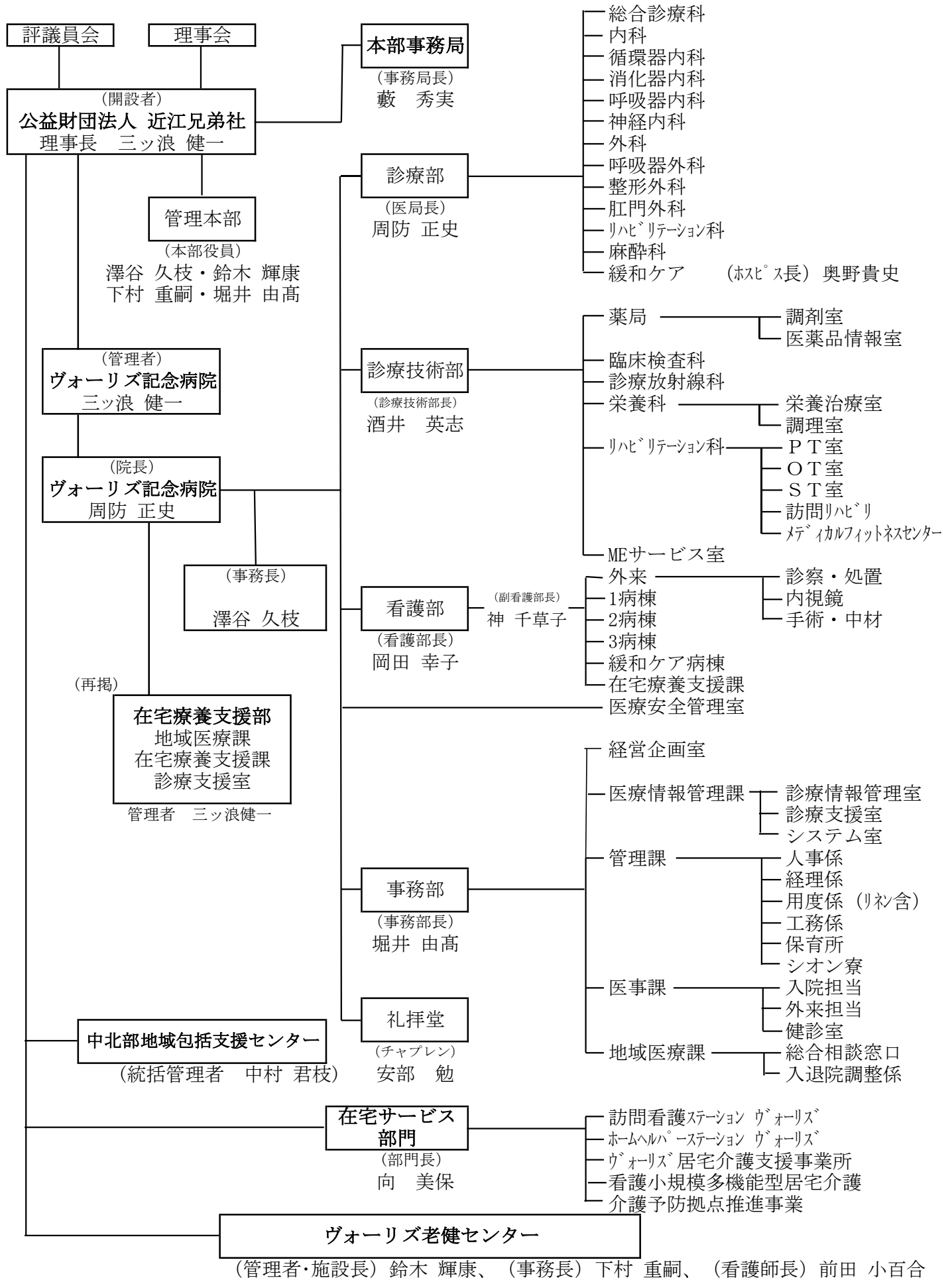
<特掲診療料>

がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
医療機器安全管理料 1
在宅療養支援病院「第 14 の 2」の 1 の(1)
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問
看護・指導料の注 2
検体検査管理加算（Ⅰ）
CT 撮影及び MRI 撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算届出有
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算届出有
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算届出有
がん患者リハビリテーション料
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料（Ⅰ）

(2019. 3. 31)

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院（及び関連事業体）

平成30年度(2018年) 組織図 (4月1日)



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
平成 30 年度 事業報告

概要

今年度は、診療報酬および介護報酬ダブル改定の年度であり、主なポイントは、診療報酬では、医療機能や患者の状態に応じた入院の評価、かかりつけ医・かかりつけ薬局の機能、質の高い在宅医療・訪問看護、国民の希望に応じた看取りの推進。がん、認知症、口腔ケアの充実、I C T等新たな技術の導入。外来医療の機能分化、アウトカム評価。介護報酬では、医療・介護の役割分担と連携の一層の推進。リハビリテーションにおけるアウトカム評価の拡充、長時間の通所リハビリの基本報酬の見直し。生活援助の担い手の拡大が挙げられる。

当院が取得した項目は、以下の通り。

療養病棟の在宅復帰機能強化加算。療養病棟医療区分の適正化。急性期看護補助体制加算。初診料の機能強化加算。療養病棟における夜間看護加算。療養病棟の褥瘡対策加算。地域包括ケア入院医療管理料 1。回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (8 月より取得)急性期一般入院料 5 (10 月から)。緩和ケア病棟入院料 1。

10 月 30.31 日に、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審した。3 回目の更新である。今回は一般病院 1 に加え、回復期リハビリテーション機能・緩和ケア機能を併せて受審した。3 つの認定を頂いたことを機に、医療の質の向上・安心安全な医療の提供に引き続き取り組んでいく。

経営状況として、

① 前年対比では、医業収入は、△15,261 千円 (△0.7%)、医業費用は、△46,656 千円 (△2.2%)、医業収支差は、+31,395 千円、医業外収支差は、△862 千円となった。結果、減収増益、経常収支差額は、+30,533 千円となり、単年度では 72,886 千円の 2 期連続黒字決算となった。

② 昨年課題として取り組んだ外来枠は、平均 4 枠とし、診療科のばらつきはあるもののフレームは安定し、クランク・看護師の体制としては最小限の人材配置としている。

予算に対して△14,805 千円 (△4.9%)。単価 10,487 円 (前年 10,822 円)の結果となった。

延べ患者数は、前年に比べ 379 名増 (22,872 名)となったが、新規登録患者数が低迷している。

検査件数の減少の要因に、常勤消化器医師不在・内視鏡検査を担う医師の減少が響いている。訪問診療は、月平均 42 件と前年に比べ 10%増で推移している。

③ 健診は、内視鏡医師の確保に苦慮し、50,359 千円（前年対比▲4,131 千円）の実績となった。但し、職員健診 5,074 千円分は、福利厚生費として戻している。

④ 入院は、一般病棟 34 床、稼働率 73.4%、単価 30,303 円、地域包括ケア病床 16 床、稼働率 101.5%、単価 34,467 円。一般の在院日数(17.8 日)、単価(前年比△648 円)、稼働率 73.4%(前年対比△4.5%)と安定に欠ける結果となった。

東館のベッド利用率の低い部屋のことも要因であり、16 床として運用した地域包括ケア病床にニーズがあり、単価・稼働率ともいい運用ができています。今後の増床に向けて示唆できる結果である。病床ミーティングを積極的に行い、直入院も受け入れができています(加算要件でもある)。

⑤ 回復期リハビリテーション病棟 42 床は、稼働率 99.1%(前年度 98.7%)と高稼働で推移した。加算要件は全てクリアしている。

紹介は、近江八幡市立総合医療センターが、84.5%(前年度 85%)を占めている。

回復期リハビリテーション病棟は、3 月から 6 ヶ月間のアウトカム評価「37」の要件が整い、8 月より入院基本料 1 として届け出を済ませている。在院日数も短縮され、単価は 40,661 円(前年 39,099 円)と安定した運営を継続している。

⑥ 療養病棟 60 床では、平成 28 年 1 月から療養病棟入院料 2 から 1 へのランクアップ、在宅復帰機能強化加算、療養病棟における夜間看護加算、療養病棟褥瘡対策加算、医療区分 2.3 割合 95.2%(前年度 94.2%)、稼働率 96.7%(前年度 98.4%)により単価は 21,342 円(前年 20,160 円)と増収となった。

医療度がアップしていることから、医療行為の増大・看取りの件数増であるため、夜間要員 4 名体制の継続、さらに業務改善、環境整備を整えながら、入浴機器(シャワー浴)を導入し、スタッフの負担軽減に努めた。患者さんにとっても、安全で温まりやすく好評である。

⑦ ホスピスは、一昨年 12 月に 1 名の医師が退職後、常勤 1 名、非常勤 1 名体制で運営。平成 31 年 1 月より、非常勤医師を 1 名迎えることができ体制強化ができた。

実績としては、病床稼働率 73.9%(前年 77.2%)、単価 50,414 円(前年 47,984 円)で推移している。在院日数が前年より 1 日短く 21.3 日となっていることが、稼働率の伸びに繋がっていないことと、反面、単価はその分高くなっている。体験入院を積極的に受け入れ、訪問診療も加えながら安心感に繋げている。

近江八幡市立総合医療センターとの話し合いや院内でのコンサルテーションも含めながら、ご紹介いただく時期については継続課題とする。

⑧ 人件費は、全体で 1,472,408 千円（前年対比△34,145 千円・△2.3%）、収入に対する人件費率は 66.7%となり、同費率は前年対比 1.0%改善された。賞与は 前年対比 +6,502 千円、退職金は 前年対比△11,668 千円、また時間外手当は、前年対比△967 千円と改善傾向にある。次年度は、長期在籍者 5 名が定年を迎える為、約 50 百万円の退職金支払いが確定しており、人件費増加は必至の状況である。適正人員配置の課題は、引続き優先経営課題として精査・検証を継続していく。

⑨ 経費関係では、在庫管理強化に努めた結果、薬品費は前年対比△11,761 千円、診療材料費は同△6,794 千円の圧縮、また昨年度 2 月に更新した関西電力との契約も奏功し、電気代は同△2,776 千円の削減が図れた。老朽化や経年劣化に伴う建物・設備改修は、療養環境や職場環境を悪化させるものは除き、建替えを見据え必要最小限に抑えている。開院 100 周年事業費及び 5 年に一度の病院機能評価受審費用 合計 7 百万円は一過性の費用と捉えている。減価償却費の増加分は、リプレイスした電子カルテ分である。

2019 年度への取り組み

- ・新院長のリーダーシップ発揮
- ・取得した診療報酬加算関連の推移検証
- ・医療安全対策加算 1 の取得(4 月申請 5 月運用)
- ・地域療養支援部の設立効果として、紹介率のアップ・退院支援の強化を図る。
- ・法人管理本部の確立に向けて、法人全体のひと・もの・かねの一元化・流動化。
- ・病院新築計画・ヴォーリズビレッジ構想の推進

以上

ヴォーリス記念病院 主要財務データ (3期分)

◆ 貸借対照表 ◆

(単位：千円)

	2017／3期	2018／3期	2019／3期
資産の部 合計	2, 100, 237	2, 386, 439	2, 422, 681
流動資産	691, 933	578, 832	625, 541
有形固定資産	1, 373, 384	1, 762, 808	1, 741, 261
無形固定資産	3, 317	2, 928	2, 411
その他の資産	31, 603	41, 871	53, 468
負債の部 合計	1, 191, 088	1, 347, 394	1, 310, 749
流動負債	366, 472	237, 928	547, 231
固定負債	824, 616	1, 109, 466	763, 518
資本の部 合計	909, 149	1, 039, 045	1, 111, 932
国庫補助金等	296, 940	296, 940	296, 940
出資金	93, 432	92, 842	92, 842
当期末処分剰余金	518, 777	649, 263	722, 150
(うち当期剰余金)	△ 32, 381	130, 486	72, 886

◆ 損益計算書 ◆

	2017／3期	2018／3期	2019／3期
医業損益			
医業収益	2, 059, 593	2, 126, 635	2, 111, 374
医業費用	2, 146, 064	2, 142, 556	2, 095, 899
医業利益	△ 86, 471	△ 15, 921	15, 475
医業外損益			
医業外収益	95, 477	98, 330	96, 454
医業外費用	41, 385	39, 957	38, 944
医業外利益	54, 092	58, 373	57, 510
経常利益	△ 32, 379	42, 452	72, 985
当期剰余金	△ 32, 381	130, 486	72, 886
前期繰越剰余金	551, 158	518, 777	649, 263
当期末処分剰余金	518, 777	649, 263	722, 149

2018 年度 主な行事・出来事

2018 年度（平成 30 年度）主な行事 出来事

4 月

- 2 日 入社式 新入職員 17 名、 前年途中入社 14 名
- 3 日 自己啓発セミナー （新入職者対象、ウォーターハウス）
- 4 日 新入職員オリエンテーション
- 5, 9 日 看護部職員研修（新入職者対象）
- 7 日 第 4 回ツッカーハウスホームパーティー（五葉館前）
- 17 日 株式会社大塚製薬工場 主催

「平成 30 年 診療報酬改定から読み解く栄養・リハビリ戦略」

講師：公益社団法人 全日本病院協会 会長 猪口 雄二先生

5 月

- 7 日 W.M. ヴォーリズ召天記念礼拝（恒春園）
- 10 日 “生と死を考える会 淡海” 第 17 回総会
講演会「私の生と死を考える」講師：高橋 恵子（ホスピス希望館 ホスピス医）
- 11 日 「看護の日」イベント
- 12 日 第 89 回近江兄弟社 恒春園記念式（恒春園・ヴォーリズ平和礼拝堂）
- 19 日 病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 23 日 「愛の献血」（老健センター 1F 研修室）
- 25 日 第 100 回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰（礼拝堂）
新入職員歓迎会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 27 日 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 開院 100 周年記念式
（ホテルニューオウミ）
- 31 日 株式会社大塚製薬工場 主催
「慢性期医療 2018 年 医療介護同時改定 栄養・リハビリ・治療・経営につ
いて検証する」

講師：一般社団法人 日本慢性期医療協会 会長

医療法人 平成博愛会 博愛記念病院 理事長 武久 洋三

6 月

- 9 日 こもれびの会（グリーンホテル Yes 近江八幡）
- 12 日 「第 46 回 里モニター会」
- 16 日 「ボランティアの集い・オリエンテーション」
- 14, 19 日 褥瘡対策委員会主催 褥瘡セミナー

「褥瘡発生・治療のメカニズムと当院の褥瘡に対する治療法」

講師：医師 北野 晴久

7月

3, 13, 20 日 医療安全全体研修

「医療安全の基本的な考え方と医療安全報告システムの必要性」

講師：医療安全管理者 木下 ゆかり

17, 18, 19 日 褥瘡対策委員会主催 褥瘡セミナー

「スキン・ケアについて～対処法と予防法～」

講師：医師 北野 晴久

18 日 里のクリーン大作戦

21 日 病院見学会&インターンシップ

26 日 近江八幡市介護予防拠点事業 ヴォーリズ介護予防教室

「お薬の管理は出来ていますか？」

講師：薬剤師 新庄 安宏

8月

20, 23 日 認知症ケア推進委員会主催 認知症ケア研修会

対象：事務部、礼拝堂、放射線科、検査科、栄養科、看護補助者、看護事務補助者

「認知症について考えよう」～事例を通して～

講師：認知症サポーター・キャラバンメイト、地域医療課 係長 村松 淳子

21 日 「友愛の家ヴォーリズ」避難・救出・消火器取扱訓練、夏祭り

9月

2 日 リードオルガン チャリティーコンサート（礼拝堂）

「懐かしい唱歌・讃美歌からバッハまで」

～リードオルガンで味わって楽しんでみませんか～

8 日 「生と死を考える会 淡海」主催 「今をよりよく生きるために」

11～14 日 個人情報保護対策委員会主催研修会

「医療施設における個人情報漏えい対策」

～求められる情報セキュリティマネジメントとは～

11 日 建築PJ委員会 発足

21 日 近畿厚生局 適時調査

里モニター「里の施設見学会」

23 日 滋賀県病院協会ソフトボール大会（今津総合運動公園）

26, 28 日, 10/1 日 認知症ケア推進委員会主催 認知症ケア研修会

対象：薬剤師、看護師、CW、リハビリ（OT/PT/ST）

「認知症と脳の関係」～症状に合った薬（院内採用薬）の使い方を学ぼう～

講師：脳神経外科 医師 深見 方博

27, 10/2, 16, 19 日 里教育委員会主催 研修会

「ヴォーリズの里」理念について再認識しよう～我らのアイデンティティ～

講師：公益財団法人 近江兄弟者 理事長 三ッ浪 健一

30 日 近江兄弟社社員会 懇親バス旅行

大阪教会での礼拝、そして日本一の串カツとニフレル（複合博物館）観光ツアー

10月

- 2日 避難・救出・消火器取扱訓練実施
- 3日 医療・介護連携懇談会
「ヴォーリズ記念病院の役割について」 院長 周防 正史
「クリニカルパスによる地域医療連携について」 理事長 三ッ浪 健一
- 5, 9, 11日 院内感染防止対策委員会主催研修会
「手指消毒の重要性」 講師：ホスピス長 奥野 貴史
- 16日 職員旅行＜日帰り＞三重方面（日間賀島）ふぐ料理
- 18日 第25回初期消火競技会（近江八幡消防署）
- 20日 病院 秋季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 30, 31日 病院機能評価付加機能（一般病院1・リハビリテーション機能・緩和ケア機能）
受審、認定を受ける

11月

- 7日 職員旅行＜日帰り＞名古屋方面 劇団四季『ノートルダムの鐘』
- 7, 9, 14, 16日 接遇委員会主催「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」合同接遇研修
「施設のホスピタリティ～医療者として欠かせない接遇～」
- 8～9日 職員旅行＜一泊＞淡路島（洲本）方面 洲本温泉
- 10日 ホスピスこもれびの会（グリーンホテルYes 近江八幡）
- 12日 管理職者研修会
講義「事業計画・BSCの発展に向けて」
講師：日本医療経営機構 主幹研究員
京都大学超高齢社会デザイン価値創造ユニット特任講師 田中 将之先生
- 12～15日 職員インフルエンザワクチン接種
- 20日 「第47回 里モニター会」（研修室①②）
- 20～21日 職員旅行＜一泊＞淡路島（洲本）方面 洲本温泉
- 20, 12/4, 11日 里教育委員会主催研修会
「救急対応、AEDの使用方法」 講師：院長 周防 正史
- 28日 「愛の献血」（老健センター1F研修室）
- 30日 社員会ボウリング大会（エースレーン近江八幡ACT内）
- 11月～2月 里教育委員会主催 他部署体験実施

12月

- 12日 平成30年度保健所による医療機関立入検査
- 21日 2018年 近江兄弟社クリスマス（ヴォーリズ平和礼拝堂）
- 25日 2018年度 ストレスチェック集団分析結果報告会
電子カルテ、新システム「MIRAI s」導入後一年経過の総括会議
- 28日 仕事納め 院内巡視

平成31年1月

- 4日 仕事始め
- 26日 平成30年度 第1回ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス信愛館)
「緩和ケア医が目指すホスピスとは」講師：緩和ケア 医師 江頭 真理子
※インフルエンザ流行の為中止

2月

- 1日 近江兄弟社 創立114年 記念の夕べ (グリーンホテル Yes 近江八幡)
- 2日 近江兄弟社 第114回 創立年記念式 (ヴォーリズ平和礼拝堂)
- 16日 平成30年度 第2回ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス信愛館)
「がん患者さんを支える生命保険」
住友生命保険相互会社 保険金部支払企画室長 平石 哲也 様
- 21日 近江八幡市介護予防拠点事業 ヴォーリズ介護予防教室 (アンドリュース記念館)
「健康チェック」 講師：看護師 吉寄 直美
- 23日 職員会主催：職員親睦会 (串春 近江八幡駅前店)
- 22, 26, 28日 平成30年度 院内感染防止対策・医療安全研修会
第1部 院内感染防止対策委員会
「手指消毒の重要性」 講師：医師 奥野 貴史
第2部 医療安全管理委員会
「多職種連携による転倒転落防止とコミュニケーションによるエラー防止」
講師：看護部 吉寄 直美主任、医療安全管理者 木下 ゆかり
リハビリテーション科 作業療法士 池田 尚輝

3月

- 2日 平成30年度 里モニター会慰労会 (ケアハウス 信愛館)
- 9日 平成30年度 第3回ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス 信愛館)
「今を大切に生きる」 講師：当院ホスピスボランティア 河合 直子 氏
- 12日 「友愛の家ヴォーリズ」第2回消火・避難訓練
平成30年度 病院・各部門事業計画発表会
- 14, 18, 19日 監査委員主催研修会 「コンプライアンス研修」
講師：弁護士 医師 医学博士 産業医 中小企業診断士 MBA 簗本 恭明 氏
- 19日 消火・避難訓練
- 24日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会 (研修室)
「緩和ケア医師の目指すホスピスとは」 豊かな人生とともに…私の心づもり
講師：ホスピス医 江頭 真理子
- 26日 平成30年度 各部署事業計画発表会

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0 名

非常勤医師 : 5 名

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日・金曜日・土曜日（第1・3・5週目）

入院 : 約 10 床

【診療内容】

常勤医師不在ですが、腹腔内臓器全般の診療、消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療、慢性肝炎のインターフェロン療法をおこなっています。

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1 名

非常勤医師 : 3 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 20 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約 1000 例）やトレッドミル検査（年間約 100 例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0 名

非常勤医師 : 2 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室を行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1 名

非常勤医師 : 2 名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第 2・4 週目）

入院 : 約 10 床

【診療内容】

市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）など幅広く対応しております。アスベスト疾患の 2 次検診についても対応しています。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 0名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・木曜日・土曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌の診断、治療を行っています。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しています。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 4名

【診療体制】

外来診療日 : 木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMR I など）及びリハビリテーションに力をいれております（外科での入院になります）。

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名
運動器リハビリ専任医師 : 1名
呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

地域包括ケア病床・回復期リハビリテーション病棟で入院リハビリを行っております。

対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科 ◆脳神経外科

【スタッフ】

常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日

入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 : 1名

非常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・金曜日

入院 : 16床（ホスピス病棟）

【診療内容】

ホスピス病棟（希望館）を開設して11年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

非常勤医師 : 1名（兼任）

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【スタッフ】

常勤医師 7 名、 非常勤医師 31 名

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを推進する。地域医療構想や地域連携の中で、東近江医療圏における当院の位置づけと役割(後方支援病院としての役割)分担を明確にし「病一診」「病一病」連携を更に推進する。
2. 緩和ケア（在宅・ホスピス・デイ）への取り組み。より緩和ケアが認定される様に周辺の医療機関に働きかける。
3. 回復期リハビリテーション病棟の稼働安定化を図る。
4. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立
5. 急性期疾患の患者の確保
 - ・迅速な診断と的確な治療
 - ・ベッドコントロールの適正化・迅速化
6. 外来部門の効率化・専門外来の充実と、健診部門の充実。在宅診療課の創設
7. 電子カルテの活用（効率化、地域ネットワーク）、クランクとの連携強化

【活動報告】

平成 27 年 2 月に在宅療養支援病院を届出し、訪問診療や緊急入院受入の本格的な取り組みを開始した。地域包括ケア病床を 13 床で運用開始し、稼働率確保に貢献した。

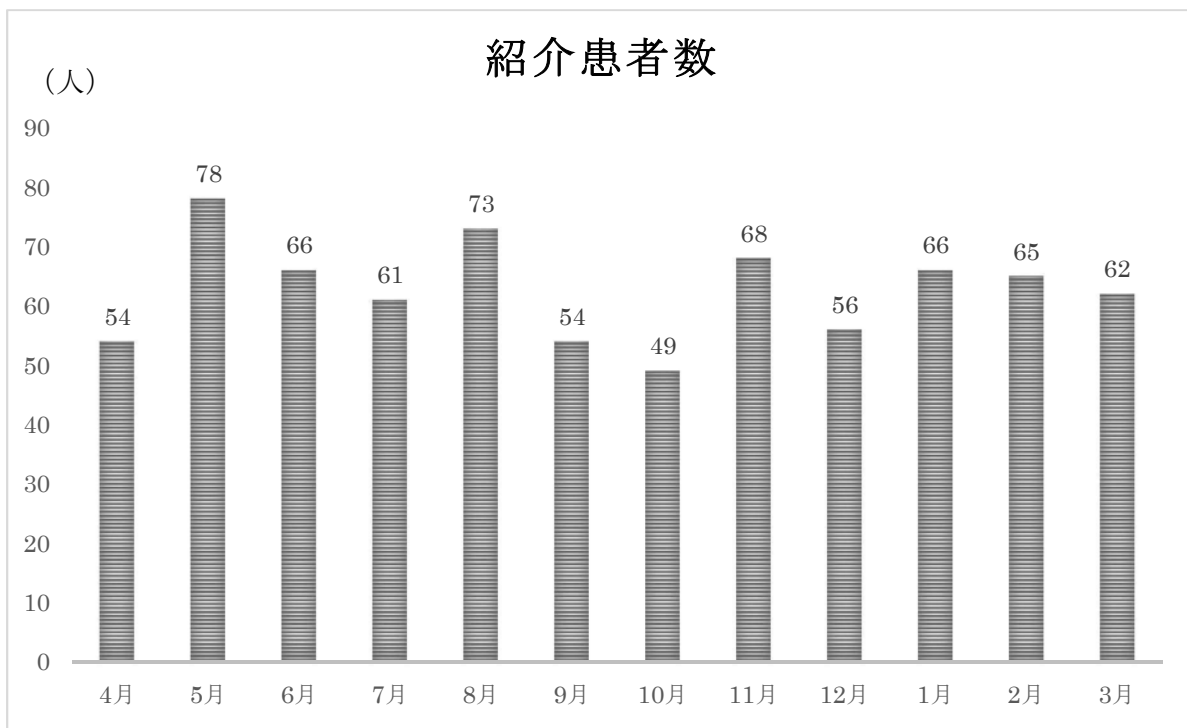
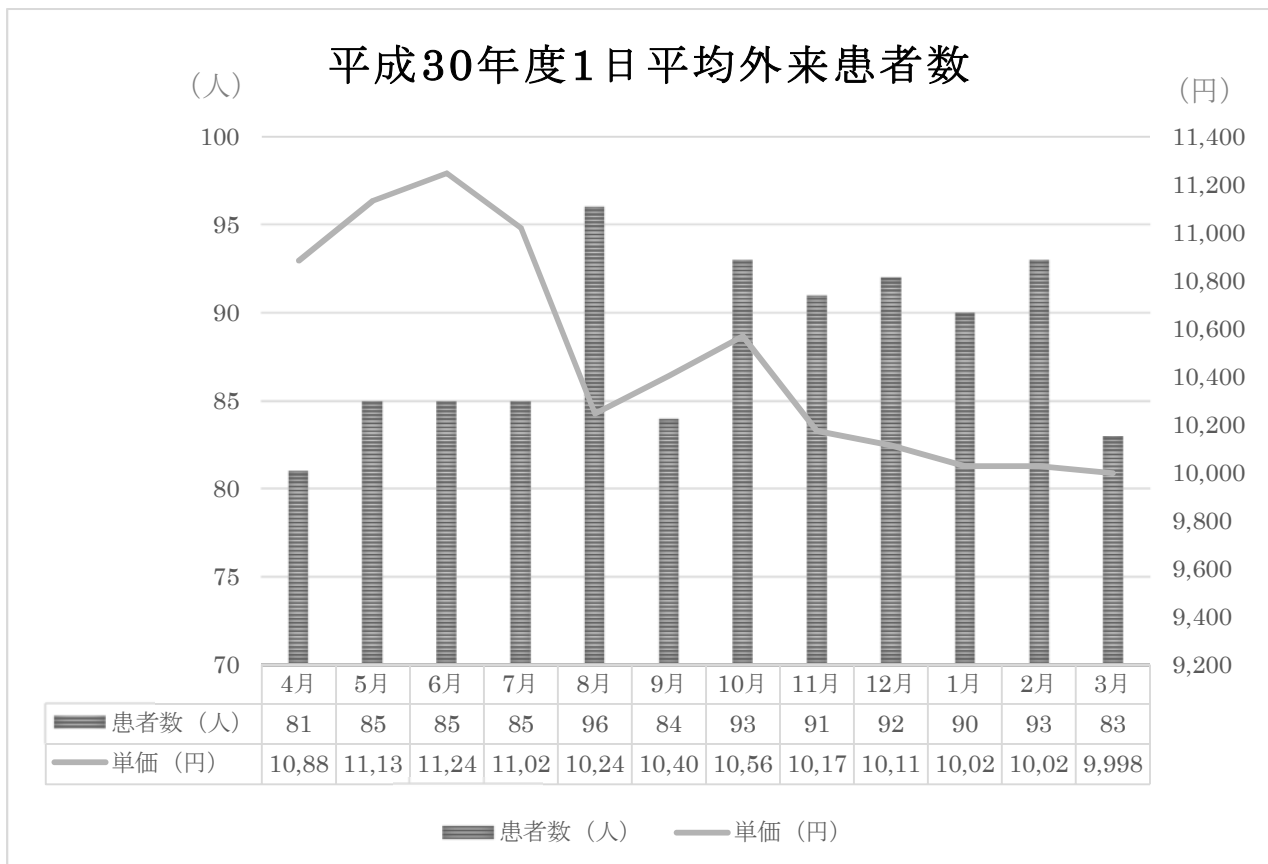
外来患者数は減少傾向で、予算上の目標達成はできなかった。

今後は在宅療養支援病院としての役割を強化し、他医療機関からの各種患者を速やかに受入、できるだけ早期に在宅復帰させて、外来や訪問診療患者数を増加させることが望まれる。

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねる。

【実績】



＜平成 30 年度 手術件数＞

手術名	件数	手術名	件数
痔核硬化療法(四段階注射法)	6	顎関節脱臼非観血的整復術	1
痔核根治術	7	陥入爪手術	1
短期痔核硬化療法（脱肛含む）	4	大腸内視鏡下ポリープ切除術	1
臍ヘルニア手術	1	子宮脱非観血的整復法	2
鼠径ヘルニア根治術	1	直腸脱手術（経会陰）	1
肛門周囲膿瘍	1	胃瘻増設術（内視鏡下）	7
直腸脱	1	痔瘻根治手術	3
気管支異物除去術（直達鏡による）	1	埋め込み型中心静脈カテーテル留置術	5
創傷処理（筋肉、臓器に達しない）	15	皮下腫瘍摘出術（露出部以外）	2
創傷処理（筋肉、臓器に達す）	10	肛門形成手術	1
肛門拡張術	1	痔核嵌頓整復法	1
		合 計	73

＜平成 30 年度 検査件数＞

	GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺		GFS	BS	CF	USTG	マンマ	甲状腺
4 月	44	2	12	64	4	5	10 月	64	4	10	114	19	1
5 月	51	0	9	57	7	1	11 月	68	5	11	108	18	1
6 月	65	1	7	108	10	3	12 月	81	3	10	115	17	1
7 月	52	2	7	101	17	1	1 月	89	2	2	78	12	1
8 月	76	1	13	106	11	3	2 月	72	2	8	59	8	6
9 月	66	3	5	111	18	2	3 月	80	1	10	55	6	6
合計								808	20	124	1076	147	31

【今後の課題】

1. 医師事務クランクと協力し、外来事務補助をより効率的に行うことを目的とする。
2. 地域ネットワークへ参加し、びわ湖あさがおネットを更に活用する。
3. 訪問診療を効率的に運用する。
4. 常勤医の安定獲得に向け、活動を行う。

診療技術部

【H30 年度活動計画及び実績】

1. 病院の基本理念、職業倫理に基づき、時代に対応した医療・介護・福祉の提供体制を充実させる。
東近江圏域、特に近江八幡市を中心とした地域の医療・介護・福祉のハブ病院として機能し、診療技術部はこの機能のひとつとして地域に貢献する。
2. 『財務の視点』と『サービスの質』が常にバランス良く維持され、偏りを感じた際には速やかに修正できる人材のあつまりとする。
3. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を確認し、当院の強みを強化する。
地域包括ケアシステムのなかで、他院から紹介等の患者が早期に地域に復帰できるように診療技術部各科が協力し、院内の他部門、里内事業体、地域の医療機関、施設、地域包括支援センター、行政機関と連携して支援する。
4. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 院内他職種カンファレンスに参加して地域包括ケアシステムの中で各職種の役割を考え、実行する。
 - 2) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、入退院支援チーム、緩和ケアチーム、糖尿病教室、院内感染合同カンファレンス参加など
 - 3) 地域 ICT（あさがおネット、びわこメディカルネット）の運用、三方よし、つながりネット等の地域会議に参加し、地域 ICT の利用により近隣の医療機関と患者情報を共有して連携し、地域医療に貢献する。
 - 4) 病院機能評価の受審を通じて課題を明確にし、改善に向けて取り組み、質の向上を図る。
 - 5) 在宅療養支援部の機能強化・発展に寄与する。
5. 各科各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) BSC を活用し、一人ひとりが病院や各科のビジョンにどのように貢献できるかを考え、共有する数値を明確化し、行動を起こす。
 - 2) 医療・介護・障がい福祉のトリプル改定による影響を検討し、速やかに各科の体制を整える。
 - 3) 経費を削減、残業時間を減らす。
 - 4) 各種委員会・会議等の運営のあり方を積極的に見直し、各科の生産性を高める。
 - 5) 人材を確保・育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
 - 6) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。（報告・連絡・サービス及び時間厳守・整理整頓）

6. コンプライアンスを徹底し、公正な企業風土の確立を目指す。
診療・介護報酬上の施設基準を理解し、遵守する。
7. 医療機器・医薬品の安全使用管理・情報提供を徹底し、医療事故を防止する。
 - 1) 医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
 - 2) 個人情報の漏洩防止に考慮し、医療安全への意識を高めインシデント・事故防止に努める。
8. 災害時、医療事故、感染症に対する各科のマニュアルを整備し、危機管理体制を構築する。
9. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
介護予防教室、出前講座、フェスタ等、地域に対する事業に各職種の職能を生かして関わる。また、病院の広報誌、ホームページで各職種の働きを地域にアピールする。
10. 技術職として研修会参加、学術発表、専門・認定資格取得などスキルアップに努める。
11. 近江兄弟社グループ他事業体職員と共に、創立者ヴォーリズへの認識を高める。
開院 100 周年（H30 年 5 月 25 日）記念事業に協力する。

【次年度の課題】

継続して診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療・診療、入退院支援に貢献する。各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。

薬局

【スタッフ】

常勤薬剤師 5 名、非常勤薬剤師 2 名、事務員 1 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. 2018 年度診療報酬改定で予測される情報を収集し、対応する。
3. 病棟薬剤業務加算取得を継続する。
4. PBPM（プロトコルに基づく薬物治療）の強化
5. 経営管理目標の達成
6. 各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざしレベルアップを図る。
7. 医療機能評価受審対応
8. 医薬品情報管理の強化
9. 在宅訪問の開始

【活動報告】

1. 病棟薬剤業務加算を取得継続した。
薬剤師が病棟業務において医師の処方設計に関わり、その成果をプレアボイド報告として実績を積む事ができた。医薬品使用患者の安全、副作用防止に寄与できた。
地域包括ケア病床数が増えたことにより薬剤管理指導算定件数、退院指導算定件数は減っているが、2016 年 4 月診療報酬改定により、後発品使用体制加算 1、薬剤総合評価調整加算、同管理料、連携管理加算が算定可能となり、これらの算定に努力した。算定不可の患者であっても薬剤管理指導業務は行った。
2. 積極的に医師の処方支援、プロトコルに基づく共同薬物治療（PBPM）に基づく業務の見直しを行った。
3. 採用医薬品の見直しを継続的に進め、在庫の適正化を行った。不動態在庫情報を定期的に医局と共有し、廃棄による減損損失を削減した。
4. 在宅訪問については医師に同行する形で開始した。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
副作用報告	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	1	0	6
プレアボイド	8	8	1	1	4	5	0	1	1	5	9	4	47
薬剤管理指導料 1	49	43	60	61	47	58	50	66	43	29	48	56	610
薬剤管理指導料 2	35	46	30	24	32	21	22	28	20	13	21	21	313
退院時薬剤情報管理指導料	18	22	20	22	28	16	20	18	23	16	13	24	240
薬剤総合評価調整加算	2	5	3	4	3	1	1	1	4	0	1	1	26
麻薬管理加算	2	4	2	7	11	7	2	4	3	1	6	4	53
指導人数	63	68	63	64	56	60	47	59	49	30	54	54	667
病棟薬剤業務実施加算 1				182	195	182	200	196	198	193	176	187	1709
後発医薬品使用体制加算	43	38	46	38	38	41	43	46	45	43	40	38	499

【教育】

日本老年医学会参加
医薬品安全管理責任者研修会参加
滋賀県病院薬剤師会学術大会参加
日本老年薬学会参加
日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加・発表
日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加

実務実習指導認定薬剤師 3 名（1 名資格更新）、NST 専門療法士 1 名（1 名資格更新）

【今後の課題】

- ・ PBPM を医師と作成し、契約に基づいて薬物治療の実施と管理を拡大する。
- ・ EBM に基づくポリファーマシーに取り組む。
- ・ 「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」（日本老年医学会）に基づき、高齢者の薬物治療を適正かつ安全に実施するよう取り組む。
- ・ 訪問薬剤管理および薬剤師外来の活動に取り組む。

放射線科

放射線科

【スタッフ】 常勤診療放射線技師 4名

- 【目標】
1. 医療サービスの質の向上に努め地域からの信頼を得る。
 2. 機器の安全管理・被ばく管理の情報提供を行い事故防止に努める。
 3. 健全な経営を徹底する。
 4. 科内スタッフのモチベーションの向上に努める。
 5. 撮影技術と読影補助のスキルアップのため、各種学術研修の参加・認定の更新に努める。

【活動報告】

CR 装置からコニカミノルタ社 DR システム AeroDR への更新とホロジック社 HorizonCiX 線骨密度装置の新規導入と共に PACS のリプレイも行った。

【実績】 <CT 撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	296	254	280	274	264	280	285	221	180	204	202	220	2971
H30	200	231	230	218	247	225	235	228	231	212	209	191	2594

<MRI 撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	86	103	110	69	90	81	110	61	69	67	70	84	1000
H30	66	80	75	70	86	65	82	77	64	55	75	61	856

<一般撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29	459	596	662	625	542	503	574	530	402	513	499	540	6445
H30	424	458	569	511	513	428	523	480	499	507	445	424	5781

総件数昨年比：CT（13%減） MRI（14%減） 一般撮影（10%減）

【教育】

- ・第 48 回 CT 画像研究会
- ・病院情報システムのセキュリティ対策
- ・第 22 回日本医療情報学会 春季学術大会
- ・第 47 回日本消化器がん検診学会 近畿地方会
- ・第 49 回 CT 画像研究会
- ・医用画像情報の管理・運用における実務者セミナー
- ・第 14 回キャノン CT ユーザー会

【今後の課題】 当院での検査目的に似合った CT・MRI 装置の更新を検討する。

臨床検査科

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門 課長 鯉江 賢二

常勤臨床検査技師 2 名（臨床工学技士 1 名兼務）、非常勤臨床検査技師 1 名

認定資格 二級臨床検査士（循環生理学）1 名、二級臨床検査士（呼吸生理学）1 名、心電検査技師 1 名、心電図専門士 1 名、心電図検定 1 級 1 名、呼吸療法認定士 1 名、初級呼吸機能検査技能者 1 名、CPAP 療法士 1 名、緊急臨床検査士 1 名、第 2 種 ME 技術認定士 1 名

ブランチラボ 常勤臨床検査技師 1 名、非常勤臨床検査技師 2 名

認定資格 二級臨床検査士（臨床化学）1 名

【目標】

検査病態を意識し検査業務に取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は、生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに呼吸機能測定等の生理検査を実施しています。呼吸機能検査では肺活量やフローボリュームの測定だけでなく、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置（カクダ）電子を使用して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。また、睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型 SAS 検査を導入致しました。検体検査部門は 2005 年 12 月 1 日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員
- ③ 日本超音波検査学会会員
- ④ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑤ 滋賀県安全法指導員協議会会員
- ⑥ 日本不整脈心電学会準会員
- ⑦ 日本睡眠学会会員

⑧ 日本 PSG 研究会会員

⑨ 国立大学法人滋賀医科大学睡眠行動医学講座非常勤

検体検査部門（ブランチラボ）

① 日本臨床衛生検査技師会会員

② 滋賀県臨床検査技師会会員

検体検査加算件数

平成 29 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算件数	611.7	619	640	609	644	644	569	655	572	583	611	587	607
平成 30 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算件数	538.9	565	566	564	531	542	467	597	475	507	593	539	521

評 価

2003.12.15 に日本病院機能評価 V4 認定 2～2019.2.1 に日本病院機能評価一般病院 1 認定

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（Ⅰ）H15.12.1 受理

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（Ⅰ）H20.5.1 受理

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

院内勉強会・市民健康関連

① CPAP（持続陽圧呼吸療法用治療器）使用方法について

② 平成 30 年度全国検査と健康展 実務委員 頸動脈エコー検査担当

研修会・セミナー参加

- 日本睡眠総合検診協会主催 CPAP 療法士養成講座
- 静臨技主催 臨床生理部門研修会“実践で役立つ超音波検査”
- クリニカルサポート(株)主催 下肢静脈エコーハンズオンセミナー
- 日超検主催 医療超音波講義講習会 循環器領域
- 日超検主催 第 43 回日本超音波検査学会学術集会
- 大臨技主催 心エコー図読影講座 全 7 回
- 日赤主催 赤十字救急法等指導員研修会（自費研修）
- フクダ電子主催 心電図講習会 初級と基礎 A と基礎 B 全 3 回
- 滋臨工主催 第 3 回医療機器 Basic セミナー
- 日本 PSG 研究会主催 第 17 回中四国支部例会
- OSAKA 心血管エコー研究会主催 第 3 回～7 回 OSAKA 心血管エコー研究会 全 5 回
- フクダ電子主催 ステップアップ講習会（自費研修）

- 大臨技主催 第9回血管エコー実技研修会 頸動脈徹底コース
- 京臨技 南部合同研修会
- 日本睡眠学会主催 第15回睡眠医療・技術セミナー
- 岐臨技主催 臨床生理部門（循環生理分野・超音波分野合同）研修会（自費研修）
- 大臨技主催 実践血管エコー 頸動脈エコー研修会
- 奈臨技主催 超音波定期勉強会 5
- 日本 PSG 研究会主催 近畿支部例会（自費研修）
- 滋臨技主催 第3回臨床生理研修会 ～脳波を読みながら記録する～（自費研修）
- 大臨技主催 第15回心エコー実技研修会 スキルアップコース
- 京臨技主催 血管超音波検査研修会
- 三臨技主催 第1回臨床検査部門超音波分野勉強会
- 奈臨技主催 超音波実技講習会
- 滋臨技主催 平成30年度精度管理事業報告会（生理部門）（自費研修）
- 日臨技中部圏支部医学検査学会主催 第6回東海血管検査研究会
- 日臨技主催 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会
- 日臨技主催 第6回近畿支部生理研修会血管エコーコース
- 滋臨技主催 第6回臨床生理研修会 ～頸動脈検査～（自費研修）
- OSAKA 心血管エコー主催 第11回心血管エコーライブハンズオンセッション

【今後の課題】

- ・携帯型 SAS 検査の普及
- ・肺機能検査の精度管理の充実

栄 養 科

栄養科

【スタッフ】

常勤管理栄養士（3名） 常勤調理師（12名） 非常勤調理員、調理補助その他（4名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) N S Tの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意

【活動報告】

- 1) 「友愛の家」イベント食への対応
- 2) N S T活動、嚥下訓練食・経口移行への複雑な個別対応、注入食の提案、栄養補助食品の用途別提案などで食事摂取量の増加、栄養状態の改善に努めた。
- 3) 異物混入などのインシデント防止対策強化
- 4) 糖尿病教室の定期開催および出前講座の担当

【実績】

収益（療養費）

	療養費収益及び特食比率						
月	特別食	比率	一般食	比率	注入食	比率	合計
4	1,311,972	20.0	4,356,262	69.2	687,525	10.8	6,355,759
5	1,474,720	21.1	4,807,128	68.9	703,525	10.0	6,985,373
6	1,569,908	23.2	4,517,146	66.7	686,750	10.1	6,773,804
7	1,383,888	20.4	4,578,592	67.3	833,500	12.3	6,795,980
8	1,078,496	16.3	4,662,484	70.5	869,300	13.2	6,610,280
9	988,980	16.2	4,258,660	69.8	852,125	14.0	6,099,765
10	1,360,732	21.2	4,100,064	63.8	962,425	15.0	6,423,221
11	1,499,832	23.6	3,975,064	62.4	892,325	14.0	6,367,221
12	1,527,096	23.6	4,139,276	64.0	805,425	12.4	6,471,797
1	1,340,996	21.7	4,053,370	65.4	797,700	12.9	6,192,066
2	1,170,880	19.5	4,041,690	67.3	792,000	13.2	6,004,570
3	1,483,562	21.9	4,252,978	65.7	731,250	11.4	6,467,790
合	16,191,0622	20.8	51,742,714	66.8	9,613,8408	12.4	77,547,626

収益（指導料）

診療報酬	外来 1回目 2,600 2回目 2,000	入院 1回目 2,600 2回目 2,000	集団 (800)	N S T (2,000)	合計
4月	2,600	0	7,200	26,000	35,800
5月	7,200	2,600	0	26,000	35,800
6月	4,600	0	6,400	18,000	29,000
7月	15,000	5,200	0	24,000	44,200
8月	2,600	10,400	8,000	30,000	51,000
9月	2,600	7,800	0	30,000	40,400
10月	7,200	2,600	6,400	28,000	44,200
11月	5,200	2,600	0	24,000	31,800
12月	2,600	7,800	3,200	26,000	39,600
1月	2,600	2,600	0	6,000	11,200
2月	7,200	7,800	6,400	26,000	47,400
3月	2,000	5,200	0	22,000	29,200
合計	61,400	54,600	37,600	286,000	439,600

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 日本栄養士会主催研修会(TNT-D研修会)：管理栄養士
- 滋賀CDE：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の増加
- 2) 特食率上昇の取り組み
- 3) 栄養指導件数の増加
- 4) 異物混入などのインシデントの減少
- 5) 集団栄養指導の方向性
- 6) 人材不足に対応できる合理的な作業への取り組み

集 団 栄 養 指 導

2018 年度 集団栄養指導

糖尿病教室

＊時間：第 4 木曜日 午後 12 時～午後 1 時半

＊場所：研修室（療養棟下）

＊内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

※2018 年度は偶数月のみの開催と致しました。

2 月休会

4 月 26 日（木） 管理栄養士

6 月 28 日（木） 看護師

8 月 02 日（木） 薬剤師

10 月 25 日（木） 理学療法士

12 月 17 日（月） 医師（岡本医師）

※12 月は月曜日に行いました。

リハビリテーション科

リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 25 名、作業療法士 15 名、言語聴覚士 7 名の計 47 名
(内 非常勤作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む)

【目標】

<部署のビジョン>

ヴォーリズ記念病院は、東近江圏域、特に近江八幡市を中心とした地域の医療・介護・福祉のハブ病院として機能し、リハビリテーション科はこの機能のひとつとして地域に貢献する。

<活動計画>

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
 - 1) 回復期リハビリテーション病棟の充実したリハビリテーション（6 単位以上／日、365 日実施、休日単位数増加）の継続実施
 - 2) 地域包括ケア病床におけるリハビリテーション（2 単位以上／日）を充実させる。
 - 3) 急性期～維持期のどのステージにおいても医療から介護へシフトする機関であることを再認識し、入退院支援・在宅復帰支援強化に努める。
 - 4) 障がい児・者のリハビリテーションを発展させる。
 - 5) 訪問リハビリテーション人員を増加することを検討し、生活期リハビリテーションを充実させる。
 - 6) 老健センターと協同し、時代にあった里のリハビリテーションを再考する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) FIM を用いてリハビリテーションの予後予測を実施する。
 - 2) 退院前訪問指導をより早期に実施する。
 - 3) 院内・外での研修会参加、講義・講演活動を行い、スキルアップに努める。
3. 各部門各人が目標数字を定め、到達できるように日々努力する。
 - 1) 予算目標数字を達成する。
 - 2) 各部門リーダーは定期的に業績推移を確認し、効率的な業務運営をはかる。
 - 3) 経費を削減、時間外勤務軽減（5%減少）する。
4. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
 - 1) 近江八幡市の業務委託（総合事業、各種施策会議）等、積極的に取り組む。
 - 2) 各種セミナーや出前講座等での講演活動を行う。

【活動報告】

- 回復期リハビリテーション病棟平均単位数は 6.46 単位（昨年度 6.62）、休日単位数 5.18 単位（昨年度 5.19）という結果であった（表 1 参照）。
- 地域包括ケア病床平均単位数は、2.38 単位（昨年度 2.64）であった（表 2 参照）。
- 回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価（サービスの質）も基準値 37.0 点を大きく上回った（平均実績指数 42.73 点）。
- 年間収益は 314,442,550 円（予算比 96.5%、前年比 97.4%）であった。

【実績】

表 1 回復期リハビリテーション病棟実績（2018.3.1～2019.3.31）

【様式49-2、49-5、49-6】	2病棟(休日)	2病棟(休日外)	合計	休日	休日外	総合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	3049	12350	15399	3049	12350	15399
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	15799	83750	99549	15799	83750	99549
i:心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
ii:脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	10473	55178	65651	10473	55178	65651
iii:廃用症候群リハビリテーション総単位数	63	311	374	63	311	374
iv:運動器リハビリテーション総単位数	5263	28261	33524	5263	28261	33524
v:呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
1日当たりリハビリテーション提供数(②/①)	5.18	6.78	6.46	5.18	6.78	6.46
算出期間における休日・休日以外の日数				73	292	365

表 2 地域包括ケア病床実績（2018.4.1～2019.3.31）

リハビリテーション提供単位数		リハビリテーション1日平均単位数	
心大血管疾患リハビリテーション	0	心大血管疾患リハビリテーション	0.00
脳血管疾患等リハビリテーション	1,523	脳血管疾患等リハビリテーション	2.68
廃用症候群リハビリテーション	1,905	廃用症候群リハビリテーション	1.93
運動器リハビリテーション	6,368	運動器リハビリテーション	2.60
呼吸器リハビリテーション	261	呼吸器リハビリテーション	1.17
がん患者リハビリテーション	0	がん患者リハビリテーション	0.00
(除外)処方と関連のない実施	2		
合計	10,059	合計	2.38

【今後の課題】

- 回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病床の病床増加に対する適正人員の把握および課題への取り組み（作業療法士・言語聴覚士の充足）
- アウトカム実績指数の維持

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリス

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー1名 介護福祉士1名

非常勤スタッフ 健康運動指導士1名 理学療法士2名

【目標】

1. 近江八幡市からの委託事業短期集中サービスC
ばわーあっぷ（火・金曜日午前中 9:30～11:30 に開催）を今年度も継続開催する。
事業運営を円滑に進められるように関係各所との連携を取る。
利用者が地域活動へ積極的参加を出来るようになる事業を目指す。
2. 一般会員 （自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高めてもらう。同時に退会数を減少させる。
送迎サービスの枠数を増やす。
3. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり、利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
4. 「里」内や他の関連事業所との連携を強く取り、利用者数の増加を目指す。
5. スタッフが専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへの研修で伝える事により、実力の向上を目指す。その知識や技術を利用者へ提供する。
6. 市内の各地域からの講師依頼を積極的に引き受ける。運動と健康が緊密に繋がっている事を伝えていく。

【活動報告】

1. フィットネス会員
フィットネス会員に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用してもらい、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。
2. 近江八幡市介護予防 日常生活支援総合事業（ばわーあっぷ）
5月より近江八幡市より委託を受けて事業開始しました。
市役所や地域包括支援センターと連携をしながら、対象となる高齢者を3か月間の短期集中プログラムで実施。ADL 向上や地域活動への参加機会を多く得られるように活動しました。
3. 出前講座 近江八幡市内のコミセンや自治会館へ出向き、運動の基礎知識や簡単に出来る体操を実践してもらいました。30年度は各所へ5回出向き講師を致しました。

【実績】

	フィットネス		パワーあっぷ	
	会員数	収入金額	利用者数	収入金額
4 月	74	326,034	6	320,000
5 月	79	310,106	9	364,240
6 月	81	329,082	6	342,120
7 月	81	324,316	7	358,710
8 月	81	317,780	4	331,060
9 月	81	303,014	6	296,590
10 月	78	307,300	3	331,060
11 月	81	314,378	2	342,120
12 月	72	468,174	2	320,000
1 月	75	285,218	6	320,000
2 月	72	299,054	6	342,120
3 月	72	380,858	7	364,240
合計	－	3,965,314	－	4,032,260

【教育】

- ・ NSCA コンディショニングセミナー

【今後の課題】

- ・ フィットネスセンターの収益確保のための今後の方向性の決定
- ・ 日常生活支援総合事業サービス C（近江八幡市からの委託）の事業の安定した運営
- ・ フィットネス会員の会員確保のためのイベントの実施
- ・ 新病院建設に伴うフィットネスセンターの移動プランの計画

ME サービス室

【スタッフ】

室長 鯉江 賢二 常勤臨床工学技士 1名（臨床検査技師兼務）
認定資格 呼吸療法認定士 1名、二級臨床検査士（呼吸生理学）1名、
初級呼吸機能検査技能者 1名、CPAP 療法士 1名、
第2種 ME 技術認定士 1名 心電図専門士 1名、心電図検定1級 1名、
心電検査技師 1名、二級臨床検査士（循環生理学）1名、
緊急臨床検査士 1名、

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。そして在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

【実績】

- ① 日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 米国集中治療医学会 F C C S インストラクターアシスタント
- ④ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑤ 滋賀県安全法指導員協議会会員
- ⑥ 日本不整脈心電学会準会員
- ⑦ 日本睡眠学会会員
- ⑧ 日本 PSG 研究会会員
- ⑨ 日本臨床工学技士会会員
- ⑩ 滋賀県臨床工学技士会会員
- ⑪ 国立大学法人滋賀医科大学睡眠行動医学講座非常勤

医療機器安全管理料件数

平成 29 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	2.3	5	4	2	2	4	2	4	0	2	1	0	2

平成 30 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器安全管理料件数	2.3	1	2	2	3	2	1	3	4	4	2	2	1

評 価

社会保険事務局施設基準：医療機器安全管理料 1 平成 20 年 4 月 1 日受理

2008 年 12 月 15 日日本病院機能評価 V5 認定～2019 年 2 月 1 日日本病院機能評価 1 認定

【教育】

院内勉強会

①新しい医療機器の導入時の研修

ベッドサイドモニターDSL-8001R 使用について

日時：平成 30 年 4 月 27 日（金）場所：1 病棟 112 室

②新しい医療機器の導入時の研修

非侵襲的人工呼吸器 Trilogy 02 使用について

日時：平成 30 年 5 月 15 日（火）場所：1 病棟 112 室

③従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

CPAP(持続陽圧呼吸療法治療器) 使用方法について

日時：平成 30 年 6 月 1 日（金）場所：2 病棟スタッフステーション

④従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 NPPV ネーザル V の 使用方法について

日時：平成 30 年 6 月 1 日（金）場所：1 病棟スタッフステーション

⑤従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

ニプロキャリカポンプ CP-330[®] 使用方法について

日時：平成 30 年 6 月 28 日（木）場所：3 病棟スタッフステーション

⑥従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

セントラルモニターDS7880 使用について

日時：平成 30 年 6 月 29 日（金）場所：医 局

⑦従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

ベッドサイドモニターDSL-8001R とセントラルモニターDS7880 使用について

日時：平成 30 年 8 月 17 日（金）場所：1 病棟スタッフステーション

⑧従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 Trilogy 100 使用について

日時：平成 30 年 10 月 11 日（木）場所：1 病棟スタッフステーション

⑨従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

非侵襲的人工呼吸器 Trilogy 100 使用について

日時：平成 30 年 11 月 26 日（月）場所：3 病棟 320 室

⑩従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

人工呼吸器 サーボ S とモナール T 60 の使用について

日時：平成 31 年 1 月 4 日（金）場所：1 病棟 112 室

⑪従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

セントラルモニター DS7740 使用について

日時：平成 31 年 3 月 5 日（金）場所：2 病棟スタッフステーション

⑫従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

PCA ポンプ 安全使用のための研修『(株)スミティカル機種 CADD Legacy の使用方法』

日時：平成 31 年 3 月 5 日（火）、6 日（水）場所：ホスピス病棟ミーティングルーム

⑬従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

小型シリンジポンプの安全使用のための研修『(株)テルモ機種 TE-361 の使用方法』

日時：平成 31 年 3 月 8 日、11 日、14 日、場所：ホスピス病棟ミーティングルーム

⑭従業者に対する医療機器安全使用の為の研修

人工呼吸器 サーボ S の使用について

日時：平成 31 年 3 月 12 日（火）場所：ME サービス室

研修会・セミナー参加

- 日本睡眠総合検診協会主催 CPAP 療法士養成講座
- 日赤主催 赤十字救急法等指導員研修会（自費研修）
- 滋臨工主催 第 3 回医療機器 Basic セミナー
- 日本 PSG 研究会主催 第 17 回中四国支部例会
- 日本睡眠学会主催 第 15 回睡眠医療・技術セミナー
- 岐臨技主催 臨床生理部門（循環生理分野・超音波分野合同）研修会（自費研修）
- 日本 PSG 研究会主催 近畿支部例会（自費研修）
- 滋臨技主催 第 3 回臨床生理研修会“脳波を読みながら記録する”（自費研修）

【今後の課題】

在宅用医療機器（在宅酸素、CPAP、NPPV、ポンプ）のレンタル手配を充実

看護部

【H30 年度活動計画及び実績】

＜看護部理念＞私達は、その人らしさを大切に、全人的看護・介護を提供します。

目標 1 病院経営に貢献する。

- ・院内病床ミーティング（週 1 回）、看護部ミーティング、病院管理者病床状況確認・対策ミーティングを毎朝開催し、タイムリーな病床管理を行なった。病床の稼働実績は各部署参照。地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟は目標数値達成した。急性期病床、緩和ケア病棟においては目標達成に至っていない。日々、各病棟機能の役割と算定要件を踏まえ 168 床の有効利用を目指した病棟連携出来た。
- ・療養病棟入院基本料 1 の「在宅復帰強化加算」「夜間看護加算 16 : 1」取得した。
- ・経営戦略シートにおける「モニタリングシート」活用にて目標管理し、経営マインドの熟成となり経営貢献出来た。
- ・人件費を意識した看護要員の配置と時間外管理として①業務量調査のため定例化②看護部研修を時間内開催とした。平均時間外昨年対比：+1 時間（機能評価受審・電子カルテディスプレイ時業務が要因と分析）
看護師負担軽減として、リハビリテーション部門による回復期リハビリテーション病棟へのゴールデンタイムの介入が開始した。

目標 2 地域包括ケアシステムの視点を持ち、質の高いケアを提供出来る看護部門を構築

- ・在宅療養支援課の介入により、入院時から退院後の生活を見据えたチームカンファレンスを定期開催、病棟主体の退院支援に繋がった。加えて、退院支援推進委員会、認知症ケア推進委員会が中心となり、個別性ある全人的看護・介護の展開を目指し、地域療養支援病院として地域貢献に繋がった。
- ・医療安全・感染管理対象者が増加傾向にある中、委員会を中心としたラウンドや報告書から課題抽出し、多職種カンファレンスの中で検討し医療の質の向上に努めた。
- ・急性期、回復期リハビリテーション病棟における認知症デイケアの対象者が増え、ニーズが高い現状がある。安全・安楽を視野に個別に合わせたプログラムによる運用を継続し QOL 維持に繋がっている。
- ・電子カルテディスプレイに合わせ、看護記録を「ナイチンゲール看護論」に導かれた、患者を生活者として捉えケア展開できる環境を整備した。
- ・出前講座 8 件看護部が担当、地域の健康予防事業への貢献と、病院の啓蒙活動に参画出来た。

目標 3 新人、現任教育の充実を図り、より良い「看護」を担う人材育成を行う。

- ・看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）を基盤に当院の特殊性を組み入れた看護師「クリニカルラダー」を作成し、e ラーニング研修と合わせてラダーレベル研修を実施。

院外研修実績 104 件、滋賀県看護学会にて 1 症例研究発表した。新たに資格取得研修参加者「実習指導者講習会」1 名「医療・看護必要度」3 名、「認知症ケア」2 名の実績である。合わせて看護補助者（介護士）クリニカルラダー作成、計画的に育成に取り組んだ。看護部マネジメントラダーを整備し、目標を明確にしながら看護管理者育成に着手できた。加えて、人事制度における能力開発分野において活用できるようになった。

目標 4 生き生きとやりがいのある職場づくりを促進し人材の確保と定着に努める。

- ・就職合同説明会、県外 1 ヶ所・県内 2 ヶ所また県内・外看護大学・専門学校の訪問を行い、看護師 104 名・介護福祉士 1 名新人職員確保に繋がった。
- ・看護部イベント委員会を設置し、看護部通信 2 回発行、看護部長と共に看護を語る会を 3 回開催した。年度初めには看護部職員全てが「マイキャリアシート」記入する事で、自己の「目指すケア」について考える機会となり、働きがい向上への意識付けとなった。
- ・職員動向

離職率	平均時間外勤務	年間有休休暇取得
12.4% (看護師 8.6%)	6.02 時間	77.3%

- ・平成 30 年度入職者 18 名：看護師 16 名（新人職員 10 名）・看護補助者 2 名
- ・平成 30 年度退職者 8 名：看護師 8 名（新人職員 0 名）・看護補助者 1 名

目標 5 機能評価受審に向けて取り組む。

- ・10 月 30・31 日「一般病院 1」「リハビリテーション病院」「緩和ケア（副）」
受審→認定を取得した。

*** 詳細な数値は各部署報告参照**

【次年度の課題】

- ・経営戦略シート(BSC シート)モニタリングシートにて看護管理の実践を継続
- ・国や医療情勢と「診療報酬・介護報酬」の知識を踏まえた看護管理を実践し、病院経営に貢献する体制を強化できる育成とシステムの強化
- ・地域療養支援病院としての使命の遂行
- ・働き方改革やヘルシーワークプレイスの知識を高め WLB の推進を図る。
- ・リクルート活動を継続にて、看護・介護サービスに必要な「人財」の確保
- ・患者・職員両視点に立った環境の整備
- ・感染、医療安全、倫理への意識を向上しチーム医療の仕組みを強化する。
- ・医療の質向上への取り組みの継続
- ・新記録マニュアルの評価を継続し効率性のある看護記録を行う。
- ・各職種教育ラダーに基づく院内研修を企画・開催し質向上を図る。
- ・各分野スペシャリスト育成の支援を継続
- ・目標管理の指標である「ステップアップシート」と教育ラダーを連動

1 病 棟

1 病棟

【スタッフ】

看護師	26 名	＜常勤 19 名（うち看護師長 1 名、主任 2 名）、非常勤 4 名＞
准看護師	4 名	＜常勤 3 名、非常勤 1 名＞
看護補助者	6 名	＜常勤 5 名、非常勤 1 名＞
看護事務補助者	3 名	＜常勤 3 名、非常勤 0 名＞

【目標】

1. 経済性を考慮した病棟運用を行い、病院経営に貢献する。
2. 高齢者・認知症ケアの充実をはかり安全で安心できる治療療養環境を提供する。
3. 新人・現任教育を行い看護・介護の質の向上を目指す。
4. やりがい感を持って個々の力を発揮できる職場づくりに取り組む。

【活動報告】

- 1-①地域包括ケア病床は、地域医療課、医事課、リハビリテーション科、医療クラークと運用について定例会議で検討を行い、算定要因クリアを継続。東館運用の課題があり、稼働維持のため、2月～東館 130 号室より本館個室 102、103 号室へ病床変更を行った。
- ②一般病床は、院内包括病床の入院待機患者を受け入れ、包括病床の稼働の安定に貢献できた。医療・看護必要度はクリアできたが、稼働率が 77.98%と目標達成に至らなかった。入院数の減少と 4 つの包括病床への転出のコントロール困難が、一般病床稼働の不安定さとなった。
- ③レスパイト入院も積極的な受け入れを継続している。
- 2-①認知症ケアの充実 院内デイケア「ひだまり」を定例化
259 回開催/年、延べ参加人数 2,179 人（昨年比 539 人減）
レクリエーションに取り組み、3 回/年開催した。
- ②インシデント 127 件(同じ)、アクシデント 8 件（昨年比 38 件減）、内容別では転倒転落が多い。認知症患者の増加に対して、ハード・ソフトの両方において環境を整える必要がある。
- ③感染報告数 28 件/年（昨年比 4 件増）
- 3-①院内、院外の研修を通して、個々のレベルに合わせたキャリア支援を行った。
- ②新人看護師教育にサブプリセプターを作り、プリセプターと 2 人体制にて行ったことがチームで育てる風土と新人の安心感に繋がり、現任看護師も共に成長できた。
- 4-①目標管理面談を行い、時間管理・WLB を考えた働き方の推進とキャリア支援を行う中で、自分のやりたい看護について考える機会を持ち、目標に取り入れていった。
（認知症ケア認定看護師課程に進学 1 名あり）

【実績】

一般急性期

2018 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
稼働率	75.25	78.39	78.48	80.84	77.91	71.11	75.95	77.78	79.57	81.03	82.25	77.22	77.98
入院数	48	41	50	40	47	48	45	46	50	43	40	38	44.66
退院数	23	27	24	31	31	28	25	25	35	23	33	28	27.75
平均在院日数	16.7	68.78	15.98	16.96	18.59	15.2	18.28	15.53	15.5	17.72	19.94	17.88	21.42
看護必要度（％）	27.5	22.1	19.4	30	15	23.5	27.1	31	19.6	28.3	28.3	26	24.81

地域包括ケア

稼働率	94.79	98.18	99.38	100.9	96.75	87.29	98.18	96.12	100.2	99.19	100	98.99	97.49
在宅直入数	4	3	3	3	4	5	2	4	4	4	3	2	3.41
緊急入院数	1	1	1	2	2	4	0	2	2	3	2	2	1.83
在宅復帰率	88.23	90	75	93.7	89	92.3	82	100	92.3	100	87.5	70	88.33
看護必要度（％）	27.4	17.2	16.9	11.5	14.6	15	13.2	22.6	23.1	22.4	31.7	32.6	20.68

【教育】

- * 病棟内研修 「環境」、「看護必要度」
- * 院外研修 延べ参加人数 49 名（e-ラーニング活用により昨年比 16 名減）
 - 医療・看護必要度評価者修了 4 名
 - 認知症ケア修了 2 名
 - ELNEC-J コアカリキュラム修了 2 名
- * 看護学生の臨地実習受入れ 6 グループ
- * 看護研究 「 転倒転落予防に対する意識改革を目指して 」
 - ～転倒転落アセスメントシートと看護計画に焦点を当てての一考察～
- * 滋賀県看護学会 ポスター発表 1 題
 - 「 認知症ケアに対する看護職の意識調査 」
 - ユマニチュード技法の取り組みから効果的な看護の共有を目指して—

【今後の課題】

1. キャリア開発支援のあり方（新人教育、子育て中の職員、非常勤職員）
2. 退院支援における看護師の役割とチームケア
3. 院内デイケアの継続と認知症患者の受け入れ体制の強化
4. 地域包括ケア病床 16 床の活用方法と一般病床の有効な稼働とベッドコントロール
5. 看護クランク、看護補助者との協働による WLB を考慮した業務改善

2 病棟

【スタッフ】

看護師 22 名 <常勤 18 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名）、非常勤 4 名>
准看護師 2 名 <常勤 2 名>
ケアワーカー 10 名 <常勤 9 名（うち主任 1 名）、非常勤 1 名>
看護事務補助者 1 名 <常勤 1 名>

【目標】

1. 安定した病床稼働率と退院支援強化に貢献する。
2. 病棟の特殊性を基に地域で求められている視点を持ち、看護・介護のケアの質向上を目指す。
3. 新人・スタッフの知識・技術向上
4. スタッフ個々が、やりがい感を持てる職場づくり促進と人材の定着

【活動報告】

1. 病棟稼働率 100.31%（重症比率 38%・重症者改善比率 62%・在宅復帰率 84.1%）、年間稼働率、重症率、在宅復帰率、重症者改善率共に達成し病院への収益に貢献
4 月の診療報酬改定における入院料 1 取得は、医業収益貢献に至った。毎週、火曜日の病床ミーティングやウォーキングカンファレンス前のリハビリチームでの情報共有や退院支援における進捗・課題の捻出など、チームケアの質向上に努めた。毎朝のミーティングや詰所会を利用し、病棟の管理データは皆へ伝えるよう意識した。

2. 重症度、認知症患者の対応に関しては、リハビリスタッフと何度か話し合いの場を設けた。必要とする患者のニーズを充足するために、また回復期リハビリテーション病棟のチームケアの質向上を目的に、次年度から診療の一つとしてゴールデンタイム時のリハビリ診療が開始となる。

また、病棟内の看護研究の取り組み「障害受容」について、スタッフ 1 人ひとりの知識向上や意識の変化について深めることができた。また、患者を通じてスピリチュアル・倫理カンファレンスと学びを得る機会が多かった。

アクシデント事例は 1 件（ひげ剃り刃誤飲）、転倒転落の件数は 70 件/112 件中(63%)

危険予測をしての環境設定や見守り体制の強化、意識の向上へ繋げ、患者の安全・安楽な入院生活を維持していく。

感染の観点では、1 月にインフルエンザのアウトブレイクが発生。職員の手指消毒量は増加したが、感染マニュアルに沿った迅速な対応や感染管理のマネジメントを正確に行い、感染拡大を今後も予防防止することが課題である。

3. 病棟全体では退院支援フローの活用が定着化し、多職種とも連携し患者の個別性ある退院支援が実践できた。看護師やケアワーカーの力量差はあるがフォローする体勢も整え質の向上に結びつけた。毎週のウォーキングカンファレンス前の多職種との情報共有や課題抽出には、師長かリンクナースが参加し、プライマリーへ課題や進捗を具体的に伝えた。次年度もチーム全体の退院支援の質向上に繋げられるよう、知識の向上やリハビリとも連携した業務改善に取り組む。

看護記録に対する、量的監査は意識、実践共に定着化した。各、プライマリーが監査後の結果を確実に確認出来るよう皆への意識を高めていく。

4. 毎月の詰め所会やリーダー会で、ゴールデンタイムの流動的な人材配置や業務改善を行った。個人のタイムマネジメントには、目標面談を利用し個人へ課題化した。

3月から実施する「業務量調査」では、具体的な業務量の可視化と課題、改善に繋げていく。

それぞれの知識・質の向上に向け病棟単位やリハビリとも合同で勉強会を開催した。

また、看護研究を中心に「障害受容」の勉強会を行い、病棟全体で障害受容への知識や実践向上に努められた。

キャリア支援委員会を中心にスタッフへ学研ナーシング視聴率アップへの啓蒙をおこなった。

視聴カードの内容確認や修了書の発行など師長がおこなう事で目標シートの評価に繋げる機会となった。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均年齢(男女)	63.67/83.54	76.18/86	60.75/82.29	72.22/80.91	71.4/79.89	73.38/86.7
入院入棟数(人)	16	19	17	18	19	18
退院転棟数(人)	16	18	18	19	20	20
稼働率(%)	100.32	101.27	100.48	100.65	100.23	100.71
在宅復帰率(%)	100	88.2	78.6	73.3	94.4	92.3
在院日数(日)	76.5	75.27	76.77	73.28	75.18	74.52
重症者改善率(%)	83	57	100	63	71	40
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均年齢(男女)	70.44/82.83	80.6/82.53	69.2/82.71	75.42/78.5	75.86/85.75	78.78/85.5
入院入棟数(人)	15	21	17	18	15	17
退院転棟数(人)	15	21	17	19	15	16
稼働率(%)	100.77	100.08	100.84	97.54	100.6	100.61
在宅復帰率(%)	78.6	73.3	93.3	83.3	84.6	74.4
在院日数(日)	82.54	77.43	75.94	70.84	80.8	84.45
重症者改善率(%)	36	78	63	60	50	83

【教育】

●院外研修

- ・看護師：30 研修
- ・ケアワーカー：5 研修

●看護研究

「脳卒中患者の障害受容について」～病棟スタッフの意識調査～

●看護学生実習

近江八幡市立看護専門学校

2 年生：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ

老年看護学実習Ⅱ

3 年生：老年看護学実習Ⅲ（2 クール）

堅田看護専門学校

2 年生：成人看護学実習

【今後の課題】

1. 次年度も病棟稼働に必要な数字を意識し可視化していく事でチームケア全体の質向上に努める。また、病床受け入れのタイムリーな対応など課題とする点はあるため、多職種との正格なコミュニケーションや対応を課題とする。
2. 次年度は、ケース検討を通して、リハビリスタッフと合同で学びを深める機会を持つていく。
3. 次年度は、業務改善委員会を中心に「質的監査」のシステム化構築を行い、各病棟へ繋げる。病棟係では、後期にデイサロン・レクレーション係と合同で料理レクを開催し、患者の満足度向上、スタッフのモチベーションアップにも繋がった。次年度も継続していく。
4. 次年度は e ラーニングの活用や回りハの研究発表に繋げる取り組みを行う。
キャリアラダーに応じた個人の課題や目標設定、動機づけを管理者として次年度に繋げていく。学生指導や新人指導など皆で育てていく雰囲気大切に、次年度の指導にあたる。

3 病棟

【スタッフ】

看護師	22 名	＜常勤 14 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名）、非常勤 8 名＞
准看護師	3 名	＜常勤 3 名＞
ケアワーカー	12 名	＜常勤 12 名（うち主任 1 名）＞
看護助手	3 名	＜常勤 1 名、非常勤 2 名＞
看護事務補助者	2 名	＜常勤 2 名＞

【目標】

- 1、安定した病棟運営と病院地域の役割を果たす。
- 2、質の高いケアの提供
- 3、多職種が連携し働きやすい職場づくり
- 4、新人現任教育の充実と専門的知識を高める。

【活動報告】

- 1-①患者数平均 58.3 人 稼働率 97.2% 医療区分 2,3 割合 95% 在宅復帰率 71%と目標値達成。退院支援強化を継続し地域のニーズに対応した。排泄交換、移乗、胃瘻、腸瘻注入、ペースト・トロミ食、口腔ケア、吸引、褥瘡交換の家族指導を行った。
-②レスパイト入院を昨年度より多く受け入れ在宅復帰支援に働きかけた。
- 2-①入院患者が重症化する中で身体拘束解除に向けたカンファレンスの実施や、倫理的視点で看取りケアについて考えられるようになった。
-②MRSAなどの感染症患者が多く、7～8割が入院時からの保菌者である。標準予防策を徹底し感染拡大に努めた。
-③看護計画を随時見直し、定期面談（1, 4, 8ヶ月）を充実させ、患者家族のニーズに向き合い質の向上に努めた。また病棟係りを中心に療養環境面の業務改善や誕生日会、季節（花見、七夕、夏祭り、クリスマス会など）のレクリエーションを行い個別性重視のケア、安全安楽な環境作りに取り組んだ。
- ④今年度のインシデントレポート 161 件、アクシデントレポート 31 件。タイムリーにカンファレンスを開催し看護計画立案に繋がれた。
- 3-①タイムマネジメントの意識向上で個々の月平均 10 時間以上の残業は減少。多職種連携で補える部分の抽出。毎月看護師、補助者業務量を調査中。
-②詰所会参加率 75%と昨年度よりアップしPDCAサイクルを回しながらスタッフ全員で検討する意識が高まった。結果、排泄交換や申し送りの時間短縮、表皮剥離減少、褥瘡治癒率アップ、新人教育の成果に繋がった。
- 4-①新人看護師を初めての療養病棟に受け入れた。9 月から夜勤勤務を行うなど段階別に新人教育を進めていった。

- ②看護学実習生指導、ボランティアとの交流活動、高校生看護体験など受け入れ、病棟活動を院外に発信しスタッフのモチベーションアップに繋がった。
- ③学研ナーシング e ラーニング視聴の意識も高まってきている。

【実績】

2018 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
稼働率 (%)	99.8	99.6	100.3	99.9	98.4	93.7	94.4	94	97.4	92.5	97.8	98.7
医療区分 (%)	94	95	96	96	97	97	97	92	93	94	94	95
在宅復帰率 (%)	67	50	43	50	44	67	71	100	78	100	100	83

【教育】

- ① 病棟勉強会
「効果的な体位変換、移乗方法」 「RCA分析」 「医療区分、看護必要度」
「輸液ポンプの取り扱い方」 「スキンケア表皮剥離」 「CVカテーテル」
- ② 院外研修会
「滋賀県実習指導者講習会」 「新人と共に成長する指導者を目指して」
「新人研修～看護職として組織人としての意識確立～」 「プリセプター研修」
「コミュニケーションスキルを習得しよう」 「地域包括ケア時代の継続看護」
「看護の倫理～意志決定支援時における倫理的ジレンマを解決するために～」
「初めての看護倫理」 「口腔機能を学ぼう～安全に食べられる口作り～」
「三方よし研究会」「急変を見逃さないフィジカルアセスメント」「看護職のメンタルヘルス」「医療安全管理研修会、交流会」「ルールを守ってリスク意識を高めよう」 など
- ③ 看護研究 テーマ「スキンケア予防における保湿剤使用での皮膚の変化」
- ④ 実習 近江八幡市立看護専門学校 老年看護学2 1G 老年看護学3 3G

【今後の課題】

- 1, 平均患者数、稼働率、在宅復帰率、医療区分2,3の比率を維持
- 2, 受け持ち看護師と退院支援リンクナース、多職種で退院支援強化に努める。
- 3, 院内感染防止対策に目を向け感染拡大防止と医療安全への意識を高める。
- 4, 事例検討会、カンファレンス、患者家族の定期面談を充実させ安全安心の療養環境提供
- 5, 医療療養型病棟における終末期ケアの充実
- 6, WLB推進活動を継続し働きやすい職場環境を推進
- 7, 院内（eラーニング視聴率アップ）研修、院外研修の参加を促し知識、技術の習得
- 8, クリニカルラダー、育成シートに沿った人材育成

緩和ケア病棟

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師	17 名	＜常勤 15 名（うち看護師長 1 名、主任 1 名、緩和ケア認定看護師 1 名）、非常勤 2 名＞
看護助手	2 名	＜常勤 1 名、非常勤 1 名＞
看護事務補助者	1 名	＜常勤 1 名＞

【目標】

- 1、多様なニーズに対応しながら、病院経営に貢献するホスピス運営を行い、地域の役割を果たす。
- 2、多職種連携の強化、チームケアの充実を図り、全人的ケアを提供する。
- 3、スタッフそれぞれが個々の能力を発揮出来、やりがいを持てる職場作り
- 4、ホスピス教育体制を充実させ質の高いケアを提供する。

【活動報告】

- 1-①稼働率 75%、平均患者数 12 人と目標達成できた。再入院が入院全体の 36%、緊急入院が 24%で体験入院をしながら必要な時にホスピスを利用できるようになってきている。体験入院 23%、レスパイト入院 5%とがんを患いながら、安心して家族の負担軽減をし、登録制度をうまく活用しながら、大切な時間を家で過ごせるような病院の役割も果たせている。在宅復帰率 34%、待機日数 7.4 日と入院基本料 1 をクリアできた。
- ②地域へは認定看護師による出前講座などを実施した。近江八幡市立総合医療センターの出張外来が継続中である。
- 2-①遺族会 2 回/年（6 月 11 月）実施 ホスピス通信 1 回/年 10 月発行
- ②認定看護師による同行訪問や院内コンサルテーションも行った。
- ③カンファレンスがタイムリーにできるように工夫しながら実施した。
- ④フレンドドック、季節の行事を行った。
- 3-①看護を語る会を 3 回にわたり行い、ケアについて語る機会を持った。
- ②有休消化率は 72%であった。時間外は平均 7 時間でなかなか短縮できなかった。
- 4-①インシデントは転倒転落が 55%、麻薬関係 9%で麻薬について、C S I について再度勉強会を行った。
- ②エルネック受講率 88%で、緩和ケア認定看護師がエルネック指導者として活動した。ホスピス年間現任教育グラムに沿って実施し、他部署も参加してもらう機会となった。

【実績】

- ・外来数：418 名（初診 135 名、再診 213 名、医療センター外来 70 人）
- ・在宅看取り：2 件
- ・遺族会：偲ぶ会 2 回/年（延べ 22 家族、36 名参加）、ライラックの日 25 名参加

- ・インシデント件数：97 件、アクシデント件数：1 件
- ・実習受け入れ（豊郷病院附属准看護学院 10 名 県立大学人間看護学部 15 名
近江八幡市立看護専門学校 5 名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入院数（人）	12	19	14	17	14	15	11	14	15	17	16	15	164 人
退院数（人）	14	21	17	18	20	18	17	11	21	13	14	22	206 人
稼働率（％）	83.3	84.27	83.96	90.3	76.21	73.96	54.84	64.44	66	77.01	76.78	81.04	平均 75.2％
在院日数 （日）	21	22	24	23	24	22	20	21	22	23	22	21	平均 22 日
在宅復帰率 （％）	33	38	35	35	40	33	41	18	43	15	47	45	平均 37％
待機日数 （日）	9	12	11	14	5	5	5	6	6	5	8	9	平均 7.9 日
登録患者数 （人）	11	10	10	12	17	22	19	17	17	16	19	21	平均 16 人

【教育】

- ・京滋緩和ケア研究会：2 回/年 延べ 5 名参加
- ・e ランニング視聴率 61％
- ・日本死の臨床研究会年次大会：3 名参加（発表：ポスター1 例）
- ・日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：1 名参加
- ・現任教育プログラム実施
- ・E L N E C－J 受講修了者：4 名 受講率 88％
- ・病棟でのケアを語る会 3 回

【今後の課題】

- 1、次年度平均入院患者数を 14 名の目標であるので、登録患者さんの受け入れの対応などホスピスと病院全体で検討していく必要がある。体験入院、登録制は今後もアピールしながらホスピスの役割を果たしていく。
- 2、近江八幡市立総合医療センターの出張外来の患者さんで、入院にも外来にもつながっていない人の経過把握など情報共有し、必要な時にホスピスにつなげる様スピーディーな対応は必要である。
- 3、ホスピス現任教育プログラムに沿っての教育を継続し、積み上げていく教育が必要である。
- 4、地域の住民、地域の病院への啓発活動を活発にしていく。
- 5、ケアを語る会などスタッフがいきいきと働ける環境作りが必要である。

外 来 部 門

外来部門

【スタッフ】

看護師 7 名 <常勤 1 名（うち看護師長 1 名）、嘱託 1 名、非常勤 5 名>
看護事務補助者 1 名 <非常勤>
看護助手 1 名 <非常勤>

【目標】

- ① 患者・家族が在宅で活用できるケアを提案・提供し、看護の質の向上に努める。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・ 4 月から中材物品交換日が、週 3 回→週 2 回（月・金）に変更
- ・ 6 月～土曜日の整形外科外来が縮小。第 4 週のみの診察となる。
- ・ 7 月下旬から、6 診の診察室が健診室となる。8 月から、7 診→1 診→健診の診察室に変更（システム変更）
- ・ 8 月から共有ホルダーに、入院予約を入院予定カレンダーとして作成（各病棟から閲覧できる。）
- ・ 外来待合に、車椅子専用の場所を設置（12 月 1 日に再度レイアウトを行った。）
- ・ 職員定期健診、8/20・22・24 の 3 日間（外来採血）
- ・ 9 月～外来フロアーに、当日の外来担当スタッフを掲示
- ・ 9 月から 4 番窓口の横も開けカウンターを設置。外来待合の患者状況を把握し、相談窓口にもできるように、スタッフを配置する。
- ・ 10 月 9 日～一般外来、インフルエンザワクチン受付開始
- ・ 職員のインフルエンザワクチン接種、11 月 12 日・13 日・14 日・15 日施行
- ・ 企業インフルエンザワクチン接種、11 月 19 日・21 日・22 日・27 日・28 日・29 日・12 月 4 日
- ・ 12 月 3 日～外来患者支援ミーティングを行う。（月～土、16 時～16 時 30 分）
- ・ 2019 年 2 月 16 日から、隔週土曜日の内視鏡が毎週土曜日となる。（午後の CF あり）
- ・ 2 月 26 日、出前講座を行う。（多賀町自治会）

【実績】

- ・H30 年 4 月～H31 年 3 月までの手術件数・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
35 件（局麻含む）	24 件	1 件
H30 年 4 月～H31 年 3 月の手術件数： 35 件		

- ・H30 年 4 月～H31 年 3 月までの内視鏡室 各検査件数（年間集計）

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1,076 件（昨年 1,226 件）	808 件（昨年 955 件）	104 件（昨年 124 件）

- ・インシデント、アクシデント年間集計（H30 年 4 月～H31 年 3 月）

インシデント 17 件、 アクシデント 0 件

【教育】

- ・糖尿病教室での患者指導を行う。
- ・継続して各自配信講義の視聴と活用
- ・外来スタッフは、どの業務もできるように配置調整をしている。

【今後の課題】

- ・外来管理、業務内容の調整
- ・外来、病棟、在宅療養支援との連携、継続看護の取り組み
- ・入院受け入れ体制の構築

在宅療養支援課

【スタッフ】

看護師 3名 <常勤 3名（うち看護師長 1名、主任 0名）>

【目標】

1. 在宅療養深部機能や体制の構築を行い、シームレスな医療・ケアを提供する。
2. 在宅療養支援課看護師として、通院患者、退院支援患者を通して病棟スタッフ育成や地域住民へ介護・生活相談を実践し、自己研鑽に繋げる。
3. WLBを推進しながら個々の力が発揮され、やりがいを持って働ける職場環境を整える。

【活動報告】

<財務の視点>

- ① 入退院支援センター内の協力があり、退院支援 1 週間カンファレンスが抜けなく参加でき、退院支援加算の算定率も昨年度よりアップした。
- ② 退院後訪問は昨年度より減少し、訪問看護師同行訪問も 12 件と少なかった。これは昨年より訪問目的がはっきりと定められ、訪問は 5 回まで可能であるが、目的達成で 1 回訪問終了している事例も多いことも大きな要因と考える。
- ③ 家族やケアマネ等の時間外対応が日々あったため、残業が月平均 6 時間半となった。

<顧客の視点>

- ① 病棟、外来共に必要に応じて患者、家族との面談を実践し情報提供、助言ができた。
- ② 退院調整の 1 つの指標として、退院後 2 週間以内の当院への再入院は後期ほぼ無かった。
- ③ 外来看護師、医師クラーク、在宅療養支援課看護師と合同で外来患者支援ミーティングを定例化し、受診された患者の振り返りを行った。情報共有することで看護師の早期の介入を実践した。

<業務プロセスの視点>

- ① 午前は 1～2 名外来に入るようにし、業務マニュアルを一部見直し変更した。結果、通院患者の困りごとへの対応や退院後患者の通院状況の確認がスムーズに可能となった。
- ② リンクナース会に参加し、退院支援に関する各病棟の課題確認を行い、リンクナース会内での勉強会も行なった。病棟看護師中心にカンファレンスも開催されるようになった。
- ③ 基本的なカンファレンスの目的や進め方、記録の書き方等のマニュアル作成に取り組んだ。

<学習と成長の視点>

- ① 外来と協働して看護研究（症例研究）に取り組み、院内の看看連係の重要性を振り返ることができた。
- ② 地域へ出向き、健康推進の観点で出前講座を 3 回開催することができた。

【教育】

看護研究 『退院後 8 日目で再入院された患者の退院支援における院内の看看連携を振り返る』 ～今、私たちに求められている役割とは～

【実績】

入院 1 週間以内の退院支援カンファレンスも定着し、退院支援マニュアルに添って退院支援がすすめられるようになった。また、入退院支援センターとして、地域医療課との連携を強化し、退院後の生活を見越した生活指導を病棟で行え、退院後も継続して自宅訪問による生活指導が実践できた。さらに地域の患者へ支援を広め、外来看護師との連携も図るよう努めた。

退院支援の介入		自宅訪問			保険請求
初回・中間 カンファレンス	126 件	退院前 訪問	39 件	リハビリ 同行 39 件	25,740 点
退院前 カンファレンス	133 件	退院後 訪問	44 件	訪問看護 同行 12 件	

【今後の課題】

- ① 入退院支援センターという看護部、事務部が協働する中で、さらに良い関係性を構築し、それぞれの専門性を十分に発揮することで入退院支援の質を高める。
- ② 入院を見越した計画的な退院支援を行なうことで、全体のベッドコントロールが可能となり病院の経営に貢献することができる。
- ③ 病診連携、在宅サービス部門との連携を強化し、情報の幅を広げながら、ヒューマンネットワークの構築に努め円滑な入退院支援を実践する。

事務部

【平成 30 年度活動計画及び実績】

1. 地域・顧客満足の得られる事業展開・運営、当院の役割（機能）を充実させ、地域連携業務の推進を継続する。
新設の在宅療養支援部の中心的役割を担い、地域病院・施設・開業医との緊密な連携と情報収集を図った。また「三方よし」等 各地域での地域連携会議に積極的に参加。近隣病院・介護施設・開業医との情報交換会の実施等を主導した。
2. 事業計画・予算達成に寄与し、健全な病院経営の主導的役割を果たす。
適正人員配置態勢の継続的検証・精査、業務の効率化・生産性向上、資材物品の在庫管理強化、関西電力との価格折衝等に注力。収支バランスの改善・適正化に努め、72 百万円の 2 期連続黒字決算を確保できた。
3. 診療報酬届出・管理態勢の緻密度・精度向上を継続推進する。
チェック・考働態勢の見直し、セミナー積極参加で精度強化。各種ランクアップ等のシミュレーション・申請を主導した。また近畿厚生局への各種届出時には、事前に部長会での説明・質疑を経て提出する体制を継続し牽制力を高めている。
4. システム管理・セキュリティーの一層強化と整備。
平成 29 年 12 月にリプレイスの電子カルテの運用面での課題を、順次横断的に改善し定期的評価分析を実施。セキュリティー面を含め システム全般の安定稼働に注力した。
5. 開院 100 周年事業、監督官庁・機能評価対応。
100 周年記念誌編纂、記念式典 開催等の一連事業を滞りなく終了できた。監督官庁の定例調査では好評価が得られ、機能評価で一般病院 1（4 回目）、及び副機能・リハビリテーション病院と緩和ケア病院の認定を取得できたのも、職員一丸となって英知を結集した賜物と言える。

【次年度の課題】

1. 法人全体で 400 名を超える人員体制となり、『ひと・もの・かね の 一元化・流動化』を具現化すべく、法人管理本部体制のあるべき姿・構築・確立を主導していく。
2. 一大プロジェクトである病院新築計画が本格稼働する。院内の調整はもとより、行政との折衝や他院情報も収集しながら、資金計画・設計・入札・建築・機器備品・各種折衝等あらゆる角度から参画していく。
3. 財務面での正念場と認識し、事業計画・予算達成に全力を傾注し、適正な経営資源の配分を従来以上に綿密に検証していく。適正人員配置態勢の継続的検証・精査、ワークライフバランスの観点から時間外業務の削減、業務の効率化を図り、併せて 法改正や一般社会常識・時流に即した就業規則の変更を随時実施していく。また病院の方向性・方針決定を的確に反映させる為、速やかに申請・届出に繋げ、健全な病院経営に資する。

医事課

【スタッフ】

常勤職員 10 名 非常勤職員 5 名

【目標】

＜医事課＞

- ① 個々のレベルアップとチームとしてのレベルアップを行う。
- ② 病院経営の柱として、財務向上の意識を高める。
- ③ 他部署間での情報共有と知識と理解と連携を深める。
- ④ 患者の満足度を向上させる。
- ⑤ 院外・院内研修の積極的な参加

＜健診室＞

- ① 売上予算実績の 5,292 万円を達成する。
- ② 健診運営の安定化・平均化を図る。
- ③ 新規開拓を計画し、実施する。
- ④ 健診を円滑に進める仕組みの見直し
- ⑤ 各 2 次検診・検査の促進運用の明確化を図る。
- ⑥ 職員の能力アップを図る。

【活動報告】

＜医事課＞

- ① 院内外研修の参加、院内職員への勉強会など開催し、他部署との連携や算定要件の確認、課内での周知を行った。
- ② システム変更に伴い、手入力による業務が増え算定漏れがないようにする業務の見直しは今後も課題である。
- ③ レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要である。電子カルテ導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻があった。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図った。また、毎月 1 回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも毎月担当を決め報告・検討、異議のあるものには再審査を積極的に行い、収益増の取り組みと、課員のスキル向上を目指した。

<健診室>

- ① 受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
- ② 繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診0日を無くした。
- ③ 1次健診で要精密検査以上の対象者に、当院の外来担当表を結果票に入れる等して2次検査の受診を促した。

【実績】

<医事課>

- ・ 減点 (円)

4 月	127, 578
5 月	160, 833
6 月	107, 913
7 月	244, 258
8 月	233, 580
9 月	151, 419
10 月	40, 768
11 月	76, 329
12 月	90, 737
1 月	183, 263
2 月	83, 549
3 月	77, 991

<健診室>

- ・ 売上実績 ¥50, 422, 532 予算の 5, 299 万円より¥2, 567, 468 の減収
- ・ 受診人数は前年度より 33 名の増加

【教育】

研修

内容 医療システムフェア 2018「医療と介護のクロスロード to 2018」

(愛知県産業労働センター)

「平成 30 年度診療報酬改定を踏まえ「今、行うこと」と「これからやっていくこと」」(コラボしが 21)

「医事課として知っておきたい疾患について」(コラボしが 21)

「病院機能評価受審フォーラム」(ピアザ淡海)

「保険診療上の指摘事項から見た日常診療での留意点最近の医療情勢とその課題」
(大津市民会館)

「診療報酬請求事務の見直しと保険点数の請求漏れ対策」(大阪)

医事課職員のための実務演習コース (大阪)

【今後の課題】

<医事課>

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう、電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を、他部門との連携を図るなど課題があり、今後も継続する。
- ② 月 1 回の減点・返戻報告と勉強会を行い、職員の知識向上を実施する。
- ③ 減点率の増加に伴い、積極的に再審査をかけ収入増に努める。
- ④ 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指す。今後も継続して病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討する。

<健診室>

- ① 消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ② 健診の流れがスムーズに流れる仕組みを検証し実行する。
- ③ 企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ④ 二次健診の受診者を増やすため、結果表と一緒に外来担当医表を付けるようにする。
- ⑤ 胃カメラ、腹部超音波検査が実施できる曜日を増やし、受診者数を増加させる。
- ⑥ 協会健保の健診で、胃なし健診を出来るだけでなく、満額受診を進める。

管理課

【スタッフ】

常勤職員 6名、非常勤職員 7名（平成31年3月31日時点）

【運営方針】

- 1, 報告・連絡・相談の必励行
～風通し・コミュニケーションのよい職場環境
他部署との連携強化と院内外情報共有～
- 2, 李下に冠を正さず
～法令・規律・ルール遵守、正々堂々・公明正大、心に曇りのない誇れる仕事～
- 3, 一線完結主義、人格の陶冶、ポジティブ志向能力の醸成
～自覚と責任感、自らの能力に上限なし、食欲に一步上を目指す努力～

【活動報告】

- ・伺書の導入。不正の起こらない経理環境を整備した。
- ・現金の取り扱いを減らすために、出張旅費を給与での処理に仕組みを変更した。
- ・月に1度、在宅部門との経理会議を行うようにし、研修や税理士・会計士とのやり取りで得た知識を共有する環境を整えた。
- ・未収金残高の照合について業務改善を行った。「在るべき医業未集金残高」を理解し、根拠付けて照合するようにした。
- ・中北部地域包括支援センターは「地域包括」と「生活支援コーディネーター」の2部門に市から委託を受けることになり、その経費計上において明確にし、決算書作成がスムーズに出来るように配慮した。
- ・3病棟浴室に、新たにシャワードームを導入（9月）、各病棟にドラム式洗濯乾燥機を導入（12月）、新館の加湿設備を更新（2月）するなど、快適な療養環境の整備に努めた。
- ・事務当直を3名から4名に増員し、各人の負担を軽減した。
- ・各病棟で使用するタオルの使用済み分の回収業務を、業者が現場へ回収してもらえるよう仕組みを変更し、病棟業務の負担軽減を図った。

【実績】

①一般経費関係

(単位:円)

科目(経費)	平成29年度	平成30年度	増 減
職員被服費	7,012,937	6,994,528	▲18,409
通信運搬費	4,401,129	4,581,781	180,652
消耗品費	16,575,128	16,780,863	205,735
消耗器具備品費	5,632,781	5,128,752	▲504,029
水道光熱費	39,568,850	38,078,447	▲1,490,403
事務・図書印刷費	181,440	290,088	108,648
燃料費	11,093,460	12,139,423	1,045,963
修繕費	6,992,372	6,093,105	▲899,267
雑費	3,425,688	11,984,787	8,559,099
自動車費	697,745	658,792	▲38,953
器械賃借料	21,961,372	24,516,524	2,555,152
合 計	117,542,902	127,247,090	9,704,188

②エネルギー関係

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	使用量	金額 (円)	使用量	金額 (円)
電気 (病院本体)	1,964,274 (kwh)	36,481,698	1,887,464 (kwh)	34,343,601
上水道	15,889 (m³)	3,886,172	16,081 (m³)	3,874,249
下水道	9,158 (m³)	1,731,701	9,110 (m³)	1,718,171
灯油	80,051 (L)	5,832,837	84,000 (L)	6,918,480
L P G (ホスピス)	18,947 (m³)	4,092,660	18,912 (m³)	4,085,185
L P G (栄養科)	3,561 (m³)	1,038,441	3,383 (m³)	986,622
合 計		53,063,509		51,926,308

③SPD 在庫推移

(単位：千円)

	30/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
SPD 倉庫在庫合計	2,667,147	2,082,103	2,193,160	2,522,362	2,933,309	2,267,810
前年対比	631,899	82,320	326,058	414,106	774,280	80,687
部署在庫合計	3,425,376	3,301,708	3,343,423	3,501,046	3,550,108	3,348,588
前年対比	▲477,069	▲491,868	▲184,774	212,273	149,646	▲323,530
合 計	6,092,523	5,383,811	5,536,583	6,023,408	6,483,417	5,616,398
前年対比	154,830	▲409,548	141,284	626,379	923,926	▲242,843
	30/10 月	11 月	12 月	31/1 月	2 月	3 月
SPD 倉庫在庫合計	2,329,127	2,311,839	3,379,785	2,490,103	2,379,190	2,090,211
前年対比	▲169,766	96,388	627,319	▲80,630	113,744	▲227,918
部署在庫合計	3,430,051	3,451,452	3,457,304	3,357,971	3,485,465	3,407,726
前年対比	▲285,279	▲6,904	▲268,739	▲362,137	188,913	3,564
合 計	5,759,178	5,763,291	6,837,089	5,848,074	5,864,655	5,497,937
前年対比	▲455,045	89,484	358,580	▲442,767	302,657	▲224,354

昨年に引続き、適正在庫管理強化に注力した。

④院内保育所における経費

(円)

	30/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支払額	1,626,480	1,600,560	1,622,160	1,604,880	1,604,880	1,613,520
	30/10 月	11 月	12 月	31/1 月	2 月	3 月
支払額	1,613,520	1,617,840	1,995,840	1,982,880	1,622,160	1,604,880

(円)

	平成 29 年度	平成 30 年度	増減
年間支出合計	23,764,800	20,109,600	▲3,655,200
補助金計	▲3,032,000	▲2,148,000	▲884,000
年間保育料	▲2,952,581	▲2,484,580	▲468,001
差引	17,780,219	15,477,020	▲2,303,199

【教育】

- ・財務経理・労務・人権・防災・設備機器等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ・ひと、もの、かねの一本化のための法人本部構想を実現させる。
- ・経理・労務業務のプロフェッショナルの育成
- ・長期的に業務を担える人材の採用、育成
- ・複数の業務が行えるようにし、お互いにカバーが出来る体制作り。
- ・働き方改革への規則や制度の整備

地域医療課

【スタッフ】

常勤職員 5 名（MSW4 名、病診連携事務 1 名）

【目標】

在宅への退院調整や各職種間の地域連携強化が求められている。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げ、前方支援の協力態勢を整えていく。

地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。当院における地域での立ち位置を明確にし、地域医療構築に向け、院内外における連携強化を図りたい。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げ、患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。

【活動報告】

- ① 入退院支援に関しては、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。
 - ・ 地域医療課経由での入院は全体入院件数 557 件／1025 件（54.34％）となっている。前年度の 44.27％を上回り、対応件数は増えている。
 - ・ 在宅療養支援課と地域医療課にて協働し、患者支援センターとして入退院支援に関わっている。より深く入退院に関わることができ、シームレスな入退院支援が行えている。
 - ・ 紹介元に関しては、今年度も近江八幡市立総合医療センターが最も多く、全体の 60.03％を占めている。続いて、滋賀県立総合病院、彦根市立病院、湖東記念病院からの転院が多い。
 - ・ 開業医、施設、県外病院などの紹介も増えており、全体の 14.54％である。回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟への紹介が多く、東近江医療圏外からの紹介も増えている。また、レスパイト入院での相談もある。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 地域の社会資源を活用し、在宅退院を目標として入院前から関わりを持ち、支援を行っている。
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院協会での退院支援事業、三方よし研究会、つながりネットなど地域や病院や施設とも連絡を取り合い情報交換ができている。得た情報を院内に提供していく事もできた。

④ 先方病院への支援を強化する。

- ・ 近江八幡市立総合医療センター、東近江総合医療センターとの連携を引き続き行なう。
圏域外の病院とも密な連携が図れるよう病院訪問し情報交換を行っている。

⑤ 病診連携機能の充実

- ・ 開業医との連携に関してはスムーズな検査・診察調整を行う事ができている。ヴォーリズ記念病院との有益な連携が図れるよう情報収集に努めていく。
- ・ びわこネットに関しては、対応件数が増えている。院内での利用促進もできている。

【実績】

H30 年度 実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	介護支援連携 計画書
4 月	38/79	48.10%	45	4
5 月	37/87	42.52%	58	7
6 月	44/84	52.38%	54	7
7 月	36/82	43.90%	57	5
8 月	48/88	54.50%	63	10
9 月	39/87	44.82%	55	1
10 月	52/85	61.17%	56	14
11 月	59/97	60.82%	61	7
12 月	56/93	60.21%	70	10
1 月	51/78	65.38%	51	1
2 月	44/81	54.32%	45	4
3 月	53/84	63.09%	67	9

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 研修会・勉強会の参加を行い自己研鑽に努めた。
- ・ 課内での症例発表を行い、ケースのフィードバックを行っている。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努めることも継続していく課題である。

【今後の課題】

地域包括ケアシステムの構築が求められている。当院においても、地域のニーズに即した病床編成が求められている。

病院間の連携に関しては、早期転院を希望している急性期病院のニーズに対して、長期入院が主体となる回復期・慢性期病院が対応しきれていない現状がある。当院でもベッドコントローラーを中心として、シームレスな入退院調整ができるよう、各病棟と連携し、調整を図っている。

地域で求められる当院の役割を明確にし、地域に発信していく必要がある。

在宅完結型の医療を目標とする中で、病院と地域を結ぶコーディネーターの役割をソーシャルワーカーの専門性として発揮したい。

医療情報管理課

【スタッフ】

常勤職員 8 名（診療情報管理士 1 名、システム管理者 1 名、医療クラーク 5 名、医局秘書 1 名）

非常勤職 1 員（医療クラーク 1 名）

【目標】（大分類）

- ① 電子カルテの効率的な運用ができるよう連携に努める。
- ② システムの安定稼動に努める。
- ③ 情報セキュリティ対策を一層整備・強化し、安心して利用できる環境を整える。
- ④ 医療の質の向上に努める。
- ⑤ 医師の事務的負担軽減に努める。
- ⑥ 全国がん登録の研修参加と認定試験合格に努める。

【活動報告】

■診療情報管理

- ① 開示関連 9 件 → 裁判関係資料…6 件、B型肝炎訴訟 2 件、労災関連 1 件、老健関連 1 件
- ② 医師会による「近江八幡在宅療養支援センター」委託業務 2018 年 9 月 1 日開始
- ③ がん登録実務者初級認定者研修 国立がん研究センター（東京）2018 年 5 月 28 日

■システム

- ① 医事システムの改修を実施。医事システム統計のデータ算出をしやすくし、データポケット機能を追加することで保険証などの管理を簡潔に行えるように実施
- ② 停電時の電源確保。停電時でも必要最低限 電子カルテが利用できる環境を整備
- ③ P A C S 入れ替え。P A C S リース満了に伴い機器の入れ替え実施

■医療クラーク

- ① 検査科への受付応援態勢（4 月～10 月）
- ② 全国がん登録勉強会（秘書）実施「滋賀県立総合病院 情報管理士 2 名来院」
- ③ 訪問診療 火曜（第 2）水曜・木曜・金曜
- ④ 医療センター緩和外来 木曜日
- ⑤ 全国がん登録実務研修会 滋賀県立総合病院 10/31

【実績】

① 医師事務作業補助研修 2018年6月23日～6月24日 大阪：大阪アカデミア

② 全国がん登録提出期間 2018年04月01日～2019年03月31日 (件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
12	12	10	13	12	12	11	8	13	12	6	12	133

③訪問診療 月別件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
35	38	40	41	48	45	42	41	44	37	40	48	499

【今後の課題】

- ① 電子カルテシステムの安定稼働
- ② 院内ネットワークの安定稼働
- ③ 情報セキュリティの強化
- ④ 診療情報管理士育成
- ⑤ 口述筆記（シュナイバー）の育成
- ⑥ 医師事務補助体制加算のランクアップに伴う業務改善

2018年(H30年1月～12月) 疾病別 年齢階層別 性別 退院患者数

ICD大分類			合計	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	平均年齢
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	男	8	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	3	83.9
		女	18	0	0	0	0	3	4	2	2	1	1	4	1	68.3
		合計	26	0	0	0	0	4	4	2	3	1	1	7	4	
Ⅱ	新生物	男	132	0	0	0	3	0	1	16	16	25	20	30	21	79.5
		女	116	0	0	0	0	5	9	16	5	23	12	26	20	78.0
		合計	248	0	0	0	3	5	10	32	21	48	32	56	41	
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	男	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	77.5
		女	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	81.0
		合計	6	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	15	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	4	4	84.0
		女	18	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6	9	89.3
		合計	33	0	0	0	0	0	0	2	1	3	4	10	13	
Ⅴ	精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅵ	神経系の疾患	男	17	0	0	1	0	0	0	2	2	7	1	1	3	75.5
		女	32	0	0	0	0	1	0	4	0	2	11	7	7	82.0
		合計	49	0	0	1	0	1	0	6	2	9	12	8	10	
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	93.0
		合計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
Ⅸ	循環器系の疾患	男	110	0	0	0	0	6	3	11	17	23	23	17	10	76.9
		女	106	0	0	0	0	1	2	4	8	10	22	24	35	84.6
		合計	216	0	0	0	0	7	5	15	25	33	45	41	45	
Ⅹ	呼吸器系の疾患	男	71	0	0	0	0	0	0	1	3	20	11	16	20	84.2
		女	56	0	0	0	0	3	4	3	2	4	5	12	23	82.4
		合計	127	0	0	0	0	3	4	4	5	24	16	28	43	
ⅩⅠ	消化器系の疾患	男	45	0	0	0	1	5	3	9	4	9	6	5	3	71.1
		女	34	0	0	3	0	1	0	2	0	7	5	5	11	79.0
		合計	79	0	0	3	1	6	3	11	4	16	11	10	14	
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	86.4
		女	13	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	4	4	82.9
		合計	20	0	0	0	1	0	0	0	1	2	3	7	6	
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	9	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	3	0	79.1
		女	17	0	0	0	0	0	0	1	0	3	6	2	5	84.4
		合計	26	0	0	0	0	0	0	3	0	5	8	5	5	
ⅩⅣ	腎尿路性器系の疾患	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	3	84.6
		女	9	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	3	2	78.6
		合計	16	0	0	0	0	1	1	0	1	2	3	3	5	
ⅩⅤ	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	65.0
		合計	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	77	0	0	1	4	1	3	6	12	6	16	18	10	76.6
		女	120	0	0	0	0	0	1	6	4	9	28	33	39	85.4
		合計	197	0	0	1	4	1	4	12	16	15	44	51	49	
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			1047	0	0	5	9	28	32	88	80	159	181	227	238	80.4

2018年(Ｈ30年1月～12月) 疾病別 在院期間別 性別 退院患者数

ICD大分類			合計	1～7	8～14	15～21	22～30	31～60	61～90	3月～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	3年～	平均 在院日数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	男	8	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11.5
		女	18	3	3	4	2	2	3	1	0	0	0	0	31.4
		合計	26	7	6	4	2	3	3	1	0	0	0	0	
Ⅱ	新生物	男	132	46	36	13	17	11	6	3	0	0	0	0	18.9
		女	116	27	20	16	12	30	4	7	0	0	0	0	29.6
		合計	248	73	56	29	29	41	10	10	0	0	0	0	
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.5
		女	4	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	14.5
		合計	6	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	15	2	3	5	3	2	0	0	0	0	0	0	19.4
		女	18	2	2	3	6	5	0	0	0	0	0	0	26.4
		合計	33	4	5	8	9	7	0	0	0	0	0	0	
Ⅴ	精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅵ	神経系の疾患	男	17	1	1	1	3	1	3	2	4	1	0	0	118.4
		女	32	5	1	3	2	8	3	2	1	5	1	1	246.4
		合計	49	6	2	4	5	9	6	4	5	6	1	1	
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14.0
		合計	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅸ	循環器系の疾患	男	110	7	9	8	13	28	13	23	6	3	0	0	82.9
		女	106	1	12	12	12	17	16	26	4	3	3	0	107.9
		合計	216	8	21	20	25	45	29	49	10	6	3	0	
Ⅹ	呼吸器系の疾患	男	71	4	11	10	13	19	7	3	3	1	0	0	49.1
		女	56	3	9	12	10	12	4	3	1	2	0	0	61.1
		合計	127	7	20	22	23	31	11	6	4	3	0	0	
ⅩⅠ	消化器系の疾患	男	45	25	11	4	1	3	1	0	0	0	0	0	11.1
		女	34	11	11	3	3	4	1	0	1	0	0	0	25.9
		合計	79	36	22	7	4	7	2	0	1	0	0	0	
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	男	7	0	0	1	1	0	2	2	1	0	0	0	94.0
		女	13	0	3	2	3	0	0	3	1	1	0	0	92.4
		合計	20	0	3	3	4	0	2	5	2	1	0	0	
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	9	1	1	0	0	4	1	2	0	0	0	0	63.8
		女	17	1	1	0	4	6	4	1	0	0	0	0	51.4
		合計	26	2	2	0	4	10	5	3	0	0	0	0	
ⅩⅣ	腎尿路性器系の疾患	男	7	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	28.9
		女	9	1	0	0	2	3	2	0	0	0	1	0	146.6
		合計	16	1	1	2	4	5	2	0	0	0	1	0	
ⅩⅤ	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10.0
		合計	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	77	7	4	5	3	30	21	7	0	0	0	0	51.9
		女	120	4	5	2	13	47	39	10	0	0	0	0	54.9
		合計	197	11	9	7	16	77	60	17	0	0	0	0	
ⅩⅩ	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ⅩⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数			1047	159	149	108	127	235	130	95	22	16	5	1	58.9

2018年(H30年1月～12月)
診察圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	脳 外	リハビリ
東近江	近江八幡市	741	25	15	74	194	35	73	105	220	
	蒲生郡	54	4	1	3	9	2	6	7	22	
	東近江市	144	4	1	4	23	4	5	66	37	
大津	大津市	9				2	1	1	5		
湖南	草津市	1								1	
	栗東市	2							2		
	守山市	15				3			5	7	
	野洲市	21	1		1	1	4		4	10	
甲賀	湖南市	4	1			2		1			
	甲賀市	3				2				1	
湖東	彦根市	35			3	11	1		8	12	
	愛知郡	3							3		
	犬上郡	2							1	1	
	長浜市	2							1	1	
湖北	米原市	0									
	高島市	0									
他府県		0									
不明		0									
総数		1036	35	17	85	247	47	86	207	312	0

2018年(H30年1月～12月)
診察圏別 診療科別 退院患者数(近江八幡市・蒲生郡)

		全科	内 科	循環器科	呼吸器科	外 科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	脳 外	リハビリ
近江八幡市	八幡学区	197	2	6	25	45	9	28	22	60	
	島学区	40	3	2	3	9	3	5	5	10	
	岡山学区	72	3	3	10	25		3	8	20	
	金田学区	114	8	1	13	34	4	8	18	28	
	桐原学区	122	5		9	27	6	14	15	46	
	馬淵学区	25	1	1	4	10	1		3	5	
	北里学区	44	1	1	3	8	5	5	8	13	
	武佐学区	31			3	14			5	9	
	安土学区	91	2	1	4	21	7	8	21	27	
	老蘇学区	5				1		2		2	
近江八幡市 総数		741	25	15	74	194	35	73	105	220	0
蒲生郡	竜王町	45	4		3	7	2	6	6	17	
	日野町	9		1		2			1	5	
	蒲生町	0									
蒲生郡 総数		54	4	1	3	9	2	6	7	22	0
合計		795	29	16	77	203	37	79	112	242	0

経営企画室

【スタッフ】

常勤職員 2 名

【目標】

- ・地域における患者ニーズの分析や役割（機能）を認識し、地域包括ケアシステムにおける当院の特色を活かす。また、平成 30 年度トリプル改定に伴い、方向性を具体化し推進する。
- ・地域への発信力を強化するために広報活動の充実と地域との関わり・協働を図る。
- ・地域連携の推進(病病・病診)を進め、地域の医療機関や介護事業者が利用しやすい環境を作る。
- ・収支の黒字体質を確立するよう、病院の健全経営に寄与する。
- ・病院各職種の要員確保をするために年間計画を立案し、特に看護・介護職のリクルート活動を継続する。
- ・各部署が同じ戦略達成のためのマネジメントツール（BSC）の運用の推進役となる。

【活動報告】

- ・病床管理ミーティングを継続実施。参加者は理事長、院長、事務長、事務部長、看護部長、MSW、経営企画室。月・水・木・金曜日の午前 8：30～8：35 に週単位の入院予定を確認し、1 日の行動計画を確認する。入院待機患者のトリアージや各病棟における経営管理に必要なデータ確認を実施
- ・リクルート活動を精力的に行い、病院見学会を開催した。
- ・病院 100 周年の実行委員として準備に関わった。
- ・地域医療懇談会の開催（地域の開業医との懇談会）。地域の開業医との連携の充実・推進のため、関連各部署と連携し取り組んだ。
- ・病院ホームページへ院内のお知らせを適時アップした。
- ・地域への出前講座の推進役になった。
- ・院内行事への参画
- ・お中元・お歳暮の手配
- ・年報の作成業務
- ・建築プロジェクト委員会に参加

【実績】

- 5/25（金） 開院 100 年記念祝賀会&新入職員歓迎会の準備・運営
- 5/27（日） 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院開院 100 周年記念式（ホテルニューオウミにて）の準備・運営
- 7/21（土） 病院見学会&インターンシップの実施（参加者 1 名）
対象：看護師有資格者・看護学生・看護学校入学希望者
- 9/4（火） 医療・介護連携懇談会の開催（参加：病院 1、開業医 10、施設 2）
内容：「ヴォーリズ記念病院の役割について」
「クリニカルパスによる地域医療連携について」
- 平成 30 年度「出前講座」の実施（計 21 回、参加者：964 名）

開催日	依頼先	演題	参加者
5 月 15 日	篠原町自治会	生活習慣病にならないために！	31 名
6 月 13 日	馬渕学区まちづくり協議会	高齢者の骨折について～予防からはじめよう～	51 名
6 月 29 日	常楽寺老人クラブ連合会	健康寿命を延ばそう！～ずっと元気でいきいきと～	56 名
7 月 23 日	近江八幡市 老人クラブ連合会	『えっ、簡単。これで運動なの？』 ～自宅で出来るカラダが楽になる簡単体操～	50 名
9 月 15 日	八区自治会（本町）	『打倒！生活習慣病』	19 名
9 月 15 日	八幡学区人権部会	最期までのち輝かせて生きるために ～自分で決める人生の終末～	70 名
9 月 26 日	八幡学区ふれあいサロン	「目覚める筋肉」～身体の動かし方を思い出そう～	27 名
10 月 11 日	14 区老人クラブ和楽会	血圧のはなし 2018	37 名
10 月 22 日	もうろう者友の会	眠っている筋肉を目覚めさせよう	10 名
11 月 9 日	赤十字奉仕団	良い姿勢・健康を保つために	340 名
11 月 15 日	安土常楽寺サロン気楽会	目指せ 健康生活！！	14 名
11 月 22 日	安土町東老蘇老人会	住み慣れた地域で最期まで暮らすために ～在宅サービスを利用して～	39 名
11 月 26 日	十七・すこやかクラブ	①生活習慣病 ②ロコモティブシンドローム ③簡単に出来る体操	15 名
12 月 1 日	金田町むつみ会	健康は心・食・体の調和から	22 名
12 月 8 日	武佐学区まちづくり協議会	健康寿命を延ばそう～いつまでも歩こう～	35 名
12 月 15 日	北原区自治会	最期までのち輝かせて生きるために ～自分で決める人生の終末～	20 名
2 月 22 日	よし笛自治会 ふれあいサロン	住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすために ～在宅サービスを利用して～	19 名
2 月 23 日	御所内町自治会	健康生活について～健康に暮らすために～	16 名

2月26日	多賀町自治会	生活習慣病を知ろう！！	17名
3月1日	安土地区サロン活動金曜会	身体とたんぱく質	53名
3月8日	新日本婦人の会安土支部	最期までのち輝かせて生きるために ～自分で決める人生の終末～	23名

- 院内行事「病院追悼会」「介護予防教室」参画
- リクルート活動

＜県内＞

- ・訪問 … 高等学校5校、 専門学校6校、 大学2校
- ・病院説明会（専門学校2校、大学1校）
- ・滋賀県看護協会主催「看護職員就職説明会」2回
- ・介護、福祉就職フェア2回

＜県外＞

- ・訪問 … 京都府（専門学校3校）・九州地方（高等学校6校）
沖縄県（高等学校4校、専門学校2校）
- ・病院説明会 … 鹿児島県（高等学校1件）
沖縄県（高等学校1件、専門学校1件）
- ・琉球新報主催看護師採用合同説明会

＊修学生制度の利用や就職に繋げることができた。

【教育】

＜院外研修＞

- ・入院点数改定のポイントと日常管理の留意点（12/6）
- ・経営企画力養成プログラム（12/14）

【今後の課題】

- ・引き続き、各種医療情報の収集及び提案する基盤となる室の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- ・別館老朽化に伴う新病院建設に向けた提言や策定事務業務
- ・予算書の作成と予算進捗管理
- ・人件費増大に伴う適正人員数の分析と経費削減計画を作成
- ・法人全体のグランドデザイン作成に参画する。
- ・次世代に向けての人材確保。計画に基づいたリクルート活動を行い、要員確保に向けて中長期のリクルート計画表を作成し遂行する。
- ・地域に向けての広報活動の充実

在宅療養支援部

【H30 年度活動計画及び実績】

平成 30 年 1 月に、地域包括ケアシステムを『ヴォーリズ医療・保健・福祉の里』で機能強化するために、在宅療養支援病院の役割を進化させ、患者がいつでもどこでも切れ目無い医療・介護を受けられることを目的として、在宅療養支援課、地域医療課および診療支援室が協同して機能する在宅療養支援部が創設された。

毎月 1 回、在宅療養支援部会議を開催しながら、以下の活動を行った。

① 訪問診療マネジメント

1 年間の訪問診療延べ患者数は 422 人（前年度比 108%）、延べ訪問診療回数 484 回（前年度比 111%）、緊急往診回数 29 回（前年度比 107%）、在宅看取り数 17 人（前年度比 189%）と増加した。訪問診療マニュアル作成に取り組み、ほぼ完成したが、細部の調整が整わず、完成は来年度に持ち越すことになった。訪問診療の説明書と同意書については書式が完成し、電子カルテでダウンロードして作成することが可能となった。安心カードについては、以前からのものを改訂した。薬剤師と管理栄養士の訪問について検討を進め、薬剤師については、在宅療養患者の中心静脈栄養とシリンジポンプによる持続微量薬剤注入について担当調剤薬局へ支援を行った。

② ベッドコントロールマネジメント業務

主に在宅療養支援課が実施した。

③ 入院時患者情報入力業務

主に地域医療課が実施した。

④ 退院前後訪問、退院支援業務、カンファレンス参加

退院前後訪問については、退院前自宅訪問 4 件、病院訪問 584 件、退院後訪問 20 件を実施した。退院支援業務については、退院患者 1029 人のうち、689 人（在宅 391 人、施設 69 人、死亡 229 人）について実施した。カンファレンス参加は、初回・定期・退院カンファレンスは 499 件、チームカンファレンスは 279 件実施した。退院支援カンファレンスは 775 件、院外カンファレンスは 3 件実施した。

⑤ 入院支援、紹介患者受け入れ調整・相談業務・営業業務

入院患者数 1,025 人のうち、557 人に入院調整を実施した。

⑥ 近江八幡市蒲生郡医師会「在宅療養支援センター」の委託業務

これについては、在宅療養支援部は関与せず、診療支援室が対応した。

【次年度の課題】

1年間、在宅療養支援課、地域医療課および診療支援室が協同して運用する機能的な在宅療養支援部として活動してきたが、在宅療養のみならず、予防から入院診療や施設での療養を含めて、地域住民が様々な充実した療養を行うことができるように、より効率的な支援を行うには、入退院支援機能、医療相談機能、企画渉外機能、訪問診療を担うスタッフを内包する独立した「地域療養支援部」創設が望ましいと考えられた。今後、地域療養支援部において、訪問診療マニュアルの完成や薬剤師・管理栄養士訪問を含め、予防から外来・入院・在宅・施設療養まで、療養者を幅広く支援できる体制づくりがなされることが期待される。

医療安全管理室

【スタッフ】

常勤職員 3名

(医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理責任者 各1名)

【目標】

1. 医療事故の未然予防活動をおこない、重大事故を防止する。
2. 医療安全管理加算の算定基準を遵守し、マニュアルの見直し及び、体制を整える。

【活動報告】

安全管理体制を組織内に根づかせることで、安全文化の醸成を促進し、患者及び職員の安心・安全な医療の提供に繋がるよう働きかけた。医療安全管理責任者（専任）・医療機器安全管理責任者・医薬品安全管理責任者を配置し、安全管理に関する院内の体制の構築、委員会等の各種活動の円滑な運営を支援した。また、医療安全に関する職員への教育・研修、情報の収集と分析、対策の立案、事故発生時の対応、再発防止策立案、発生予防および発生した事故の影響拡大の防止等に努めた。医療安全報告システムの統計分析により、転倒転落の発生頻度が高いため、環境を整える関わりや、転倒防止のため診療技術部長、管理課の協力により車イス管理の一元化を行った。

医療安全管理体制加算2の算定要件の遵守を行い、更に加算1の申請準備を整えた。

【実績】

1. 月1回の委員会開催。必要に応じ、委員会メンバー以外の参加あり。
2. 推進カンファレンス開催（毎週月曜日）業務改善計画書による改善
3. 年2回の医療安全研修の企画と運営
テーマ：医療安全の基本的な考え方と医療安全報告システムの必要性
7月3日(火)14:30～15:30 7月13日(金)17:30～18:30 7月20日(金)17:30～18:30
テーマ：「多職種連携による転倒転落防止とコミュニケーションによるエラー防止」
2月22日(金)18:00～18:30 2月26日(火)14:30～15:00 2月28日(木)18:00～18:30
4. 新入オリエンテーション実施：テーマ：医療安全の取り組み 4月4日9:00～9:30
5. 医薬品管理者による年1回の研修の企画と運営（診療技術部で報告）
6. 医療機器安全管理者による年1回の研修の企画と運営（診療技術部で報告）
7. 医療事故報告システムの運営（情報収集と分析、対策立案、フィードバック、評価）
8. リスクマネジメント部会の資料作成（各月ごとの統計分析結果と伝達事項）
9. 月1回の院内5Sラウンドの実施と評価

10. 各部署へのカンファレンスの参加
11. 医療安全管理指針・医薬品管理マニュアル・医療機器安全管理マニュアルの見直しと改訂
12. 入院患者相談窓口：医療対話推進者（医療メディエーター）直接対話件数 0 件
13. 医療安全情報の配信 5 回
14. 院内ラウンド 1 回/日
15. 医療安全管理加算算定要件の遵守（委員会・推進カンファレンス参加者の管理）
3 月医療安全管理加算 1 申請予定であったが、近畿厚生局指導内容：同一職員の欠席のため、部長会で決議した結果申請延期

【教育】

1. 院外研修
 - 1) 医療安全全国フォーラム、医療の質・安全学会学術集会参加
 - 2) 医療コンフリクト・マネジメントセミナーフォローアップセミナー参加
 - 3) 医療安全研究会「地域包括ケアシステムを構築するための設計と連携」
 - 4) 平成 30 年度医療安全対策研修会
 - 5) 平成 29 年度医療安全対策窓口担当者研修会
 - 6) 医療事故調査制度の初期対応に関する研修会
 - 7) 医療メディエーション対応による事例検討会
 - 8) 医療事故調査制度 管理者・実務者セミナー

【今後の課題】

1. 職員の意識向上に向けた研修、教育の実施
全体研修・コードブルーと ALS 院内研修の検討
2. 医療事故調査制度院内体制の整備（マニュアルの見直し）
3. リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育

礼拝堂

【スタッフ】

チャプレン1名（常勤）

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝が定着。礼拝から新たな月が始まるという意識が増してきた。
- ② ミュージックタイムを毎月実施した。
- ③ 病床訪問について関係性を築く働きなど意識した。

2 全体まとめ

- ① 春季追悼会のご遺族の参加は例年に比べ少なかった。スタッフに参加を呼びかけているが勤務体制もあり参加は難しいのが現状。その中で理事長、院長が参加くださっていることに感謝しています。追悼会は委員会主催の行事となっているが、病院として追悼しご遺族の慰めとなるように願って開催されている行事なので、各部署が様々なかたちで積極的に参加し開催できるような改善を期待したい。
- ② 祈りの場
病棟（2，3，ホスピス）、各種委員会に於いての「祈り」
「祈り」をもってそれぞれの仕事を始めることが定着してきた。

3 総括

- ① 創立 100 周年を迎え、記念誌の発刊のために一部作業に携わり、記念式典では礼拝を担当した。
- ② 2018 年度の退院アンケートに、「私は昔近江サナトリウム時代にお世話になっていました。キリストの香りがせず寂しく思いました。」とあった。時代とともに変わっていくこと、変わってはいけないことを考えさせられた。一人部署としての限界もあるが、その期待に答えられるように病院全体に少しでもキリストの香りが広がるような働きを心掛けたい。

在宅サービス部門

【H30 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、4 事業所で法人内の異動と退職・休職が例年にない 9 名という大きな数字が出てしまい、入職は 5 名あったが単独訪問がすぐにはできないため、それぞれ実績に影響した。しかしながら 4 事業所としては、黒字の 7,554 千円の経常利益があった。「キリスト教の隣人愛」に根ざしたサービス提供をしていくために、各事業所は重症度に関係なく疾患にも関係なく引き受けた。訪問看護ステーションは、訪問件数は前年度に比べ減ったものの重症ケースが多かったこともあり予算以上の経常利益があった。ヘルパーステーションは、障がいの利用者が激減し、収益に影響した。喀痰吸引等のできる特定行為従事者が 5 割在籍しているため、重症の方々を引き受けることが多いのだが、入院や入所・お亡くなりも多く、短期集中型の訪問となっているケースが少なくない。居宅は、1 名増員し、「里」内をはじめ虐待などの困難ケースにも積極的に取り組み、目標数には至らなかったが黒字決算で締めくくることができた。看護小規模多機能型居宅介護事業は、前年度の収入の 2 倍の実績をあげることができた。開設 2 年足らずで月平均の登録利用者数も 24.5 名（最高 28 名）という好成績は評価できる。介護予防拠点推進事業は、法人の各部署と事務職全員の協力で平成 19 年からの事業を継続できている。特に、介護予防教室ではテーマを決めて 5 回シリーズで開催しており、皆勤された方も 7 名だった。

また、経理面については、法令遵守を徹底し公正な運営をしていくために公認会計士や税理士の指導を受けながら、日々の小口現金の確認や預金通帳との照合等管理者及び事務職で確認し合った。

職業倫理についても「コンプライアンス研修会」に全員が参加し、業務に携わる自覚と責任をもつように努めた。

【次年度の課題】

平成 31 年度（2019 年度）は、各事業所の職員の定着率が改善できるよう検討しつつ、近江八幡市内だけでなく東近江圏内の『在宅支援の核』となるよう『組織』を再編成し、後継者育成と職員の教育にも力を入れていきたい。また、各事業所協力し合って重症の方や困難事例等の受け入れができるように努め、地域の方々や各関係機関から必要とされる在宅サービス部門としてまた一步前進していきたい。

訪問看護ステーション ヴォーリス

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者 1 名 (正看護師)、在宅看護専門看護師 1 名 (非常勤)
正看護師 14 名 (常勤 7 名、非常勤 7 名)、理学療法士 4 名 (非常勤)
事務職員 2 名 (常勤 1 名、非常勤 1 名)

【目標】

- ① 「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「ケアハウス」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力・連携し里内の機能を充分発揮できるようにしながら、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ② 年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるような体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③ 医療保険の「機能強化型訪問看護管理療養費 2」と介護保険の「訪問看護体制強化加算 I」の再取得ができるよう癌末期に限定されない在宅ターミナルケアを積極的に受け入れ、最期までその人らしい生活を支援していく。
- ④ 職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤ 法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

常勤看護師 2 名の入職があり、一時期は常勤換算 13.2 名まで増員できたが、年度途中で常勤看護師 2 名、年度末に常勤看護師 1 名、非常勤理学療法士 1 名の退職があった（年度末の常勤換算 12 名）。

訪問件数は 10,031 件で、昨年度と比較して－669 件となった。また、在宅看取りも 13 件で、がんや老衰のターミナルの方に対応することが出来た。

医療保険の「機能強化型訪問看護管理療養費 2」、介護保険の「訪問看護体制強化加算 I」が継続して取得でき利益につなげることができ、経常利益は 10,039 千円で前年度より＋80,2 千円となった。

実習の受け入れについては積極的に行い、看護学生・専門看護師・ステップ I・退院支援強化事業等の実習を行った。またスタッフ教育についても、内外部研修やステーション内での勉強会を行ったりするなどしてスキルアップに努めた。

【実績】①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	304	345	395	394	351	310	398	380	336	290	268	373	4144
介保	517	568	529	515	587	468	502	452	435	416	437	461	5887

②訪問件数比率（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	37	38	43	43	37	40	44	46	44	41	38	45	41
介保	63	62	57	57	63	60	56	54	56	59	62	55	59

訪問件数(医療・介護保健)比率は、ほとんどが4:6(普通は2:8くらい)、医療保険の方が多く重症度も高かった。前年度に比べ、介護保険での訪問は－152件、医療保険では－517件となった。24時間対応体制で運営しているが、20～40件/月の緊急訪問、10～40件/月の緊急電話対応を行った。

また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均20名、在宅看取りは年間13名であった。併設のヴォーリス記念病院からの指示書は約32～40%で、新規利用者の44%はヴォーリス記念病院の患者であった。

【教育】

外部研修では「経営能力修得・向上セミナー」「訪問看護師看護実践向上研修」「精神科訪問看護基本研修」「訪問看護研修ステップⅠ」「在宅ターミナルケア」「保険請求業務」「創傷セミナー」等、専門分野の研修に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。

また、介護職員の喀痰吸引等の指導看護師養成講習会に今年度も2名参加し、資格を取得した。

看護研究については、来年度の発表に向け取り組みを行った。

教育面に関しては、看護学校等への講義や実習生の受け入れをし、新入職員に対する同行訪問や面接などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。

【今後の課題】

常勤看護師の退職が続き、緊急対応が出来る看護師が減少し、個々の負担が増大している。非常勤看護師でも可能なスタッフにも協力を得ながら緊急携帯対応の負担軽減に努めていきたい。そのためにも常勤看護師2名（非常勤看護師でも緊急対応が可能であれば）採用に努めていく。

また、最近では困難事例が多くなる傾向にあり、スタッフの疲弊感も増強しつつあるが、状況に応じた対応を検討しながら、個々に負担が行かないよう留意していきたい。

それぞれがモチベーション高く従事できるよう、またWLBの実現に向けた取り組みが出来るようにしたい。そして柔軟な対応が出来るよう組織力を強化し、その人らしい在宅での生活が出来るよう、在宅部門や里内、また関係機関との連携を密にしながら利用者やその家族を支援していきたい。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者（介護福祉士・サービス提供責任者・介護従事者兼務）1名

介護職員 10名（介護福祉士7名・実務者研修修了者3名内1名事務職兼務）

【目標】

- ① 喀痰吸引等ができるヘルパーが7名になり、重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げる。
- ② 在宅ヘルパーを希望する人材育成に力を入れ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるようにする。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。

【活動報告】

平成30年度は、「特定事業所加算Ⅰ」を継続できた。喀痰吸引の出来るヘルパー7名が重症の利用者さんにも対応していたが、今年度は利用者さんが激減した年となり、今後の事業所の運営を考えさせられる一年となった。障害サービスも「事業所加算Ⅰ」が要件を満たさず「加算Ⅱ」に下げることとなった。

【実績】 訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	946	908	914	905	1032	958	974	813	851	816	834	931
障害	150	192	143	136	165	111	126	128	161	129	129	140
新規	3	3	6	4	4	3	2	2	3	2	6	5

【教育】

ヴォーリス記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。外部研修については経験年数に応じ、階層別研修・専門分野研修等に積極的に参加しスキルアップに努めた。引き続き資格習得できる環境を整えていく。

【今後の課題】

訪問従事者11名中8名が介護福祉士資格を習得し、内6名が喀痰吸引等のできるヘルパーとして登録し、医療依存度の高い人でも最期までご自宅での生活が送れるよう支援する事業所として、特色づけていきたいと考えている。また、障害の「事業所加算Ⅱ」が取り戻せるよう、今後も研鑽を重ね、地域から信頼される事業所を目指し、努力をしていきたい。

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(主任介護支援専門員)1名 介護支援専門員7名(内主任介護支援専門員3名)

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 事業所内の協力を深め、個々の能力を高め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者 79 名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 34 名、ヴォーリズ関連施設 25 名、地域包括支援センター7 名、他居宅 8 名、他医療機関 5 名であった。今年度は、前期 6 名・後期 7 名体制で運営し、皆の協働のもと、特定事業所集中減算に該当もなく、適正な運営ができた。また、実習生の受入れや出前講座、大学での講義、介護支援専門員研修のファシリテーターとして参加し、特定事業所としての役割を果たせるよう努めた。

【実績】 月別利用者数（給付）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
利用者 人数	189	188	193	193	193	197	200	195	204	208	203	209	197

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにし、主に主任介護支援専門員の研修や、難病・看取り・多種職連携に関する研修、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

次年度も引き続き 7 名体制で安定した運営の継続と、教育・育成に力を入れ、事業所全体のレベルアップを図りながら、ヴォーリズグループの里の連携を求めてこられる方々の信頼に応えられるよう、適正なケアプラン作成と連携の充実に努めたい。

看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家 ヴォーリス」

【スタッフ】

管理者 1 名（看護師）、看護師 8 名（常勤 3 名、非常勤 5 名）、
介護支援専門員 1 名（介護職兼務、常勤）、作業療法士 1 名（介護職兼務、常勤）、
理学療法士 1 名（非常勤）、介護福祉士 3 名（常勤）、実務者研修修了者 3 名（常勤）、
初任者研修修了者 2 名（常勤、1 名休職中）、事務職 1 名（介護職兼務、非常勤）
無資格補助者 1 名（非常勤）

【目標】

- ① 地域や『ヴォーリス医療・保健・福祉の里』と連携しながら、地域から必要とされ愛される看多機を運営できる。
- ② 医療依存度の高い重症ケースや難病等のケースを積極的に受け入れられるよう、看護・介護が協働して、満足していただける質の高い「看多機」を目指す。
- ③ 「泊まり」「通い」「訪問（看護・介護）」「ケアプラン」の一体的なサービスにより、最期までその人らしい生活に寄り添いながら温もりのある関わりをする。
- ④ 一体的なサービスによる職員の安全の確保にも努める。
- ⑤ 職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑥ 経営の安定化を目指す。

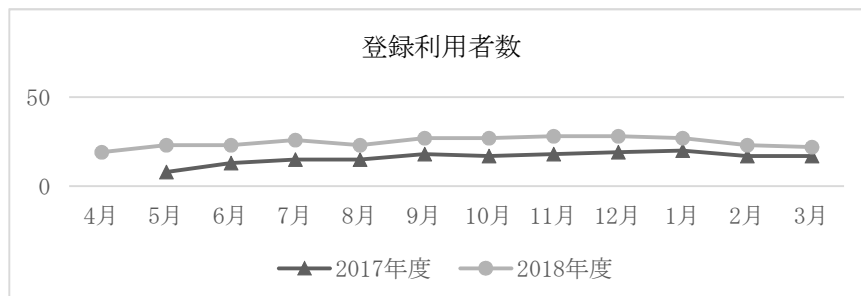
【活動報告】

看多機事業は、登録利用者 19 名からのスタートであったが、最高で 28 名の確保までできた。しかし、上半期の業績に対する人件費の削減を決断しなければならず、その上予想外の退職・休職もあり、訪問看護事業を制限せざるを得ない状況になった。その上、重症ケースや在宅療養生活の継続が困難な独居等の方も多く、入院や施設入所・死亡もあり入れ替わりが激しかった。看取りも 5 名あり、地域の開業医等の訪問診療や往診もしていただいている。平均介護度は「要介護 3」をキープできた。地域との交流として夏まつりやクリスマス会等の行事をはじめ、運営推進会議にも自治会長や民生委員も出席して頂き、地域の「声」を聞くことにしている。また、看取りをさせていただいた方の奥様がボランティアで来てくださるようになったり、食事の準備や片付けに地元の方の方が勤務して下さるようになり、少しずつだが看多機の目的である地域との近い関係の事業になりつつある。

訪問看護事業は、医療保険・介護保険共に利用者が少しずつ増えてきている。1 日平均 8 ～10 名の訪問に看護師 2～3 名が対応している。24 時間緊急対応もほとんどの方が希望されており、在宅看取りも 5 名あった。1 日複数回訪問する重症ケースも増えてきている。

【実績】

看多機事業 … 登録者数：22 名（平成 31 年 3 月末） 月平均登録者数：24.5 名



平均介護度：3.0

年間総合計 「泊まり」：1235 人（月平均 102 人）

「通い」：3616 人（月平均 301 人）

「訪問看護」：1061 回（月平均 88 回）

「訪問介護」：2358 回（月平均 196 回）

訪問看護事業 … 訪問件数：1695 件（医保：647 件 介保：1048 件）/年

【教育】

内部研修（基本理念・人権擁護・接遇・個人情報保護管理・法令遵守）には全員参加
個々の目標に準じた外部研修への積極的な支援

（介護職実務者研修、主任介護支援専門員研修、高齢者虐待、認知症ケア、管理者研修、
感染予防、リスクマネジメント、特定行為従事者、リハビリテーション等）

【今後の課題】

地域の方との交流や各関係機関との連携を大切にしながら、登録利用者数 25 名以上の確保と登録利用者以外の訪問看護事業の展開を促進していき、安定経営を目指す。また、利用者やご家族の希望に出来る限り添えるように職員一同温もりのある関わりをしていきたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成 19 年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室、歌声サロン等の活動を概ね週 1 回程度の開催から行なってきた。地域からの高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成 30 年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室 テーマ:『高齢者の生活と健康について』

	内容	担当・講師	参加数
5 月 24 日	「認知症の予防 ～脳を元気にしよう～」	ヴォーリス老健センター 課長 村上 温子 氏	20 名
7 月 26 日	「お薬の管理は できていますか？」	ヴォーリス記念病院 薬剤師 新庄 安宏 氏	14 名
9 月 27 日	「自分の弱点を知り、 強みを維持させよう」	看多機 友愛の家ヴォーリス 作業療法士 戸田利嘉子 氏	20 名
11 月 22 日	「折り紙教室 Part XIV」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	17 名
2 月 21 日	健康チェック「身体の変化の気づき 方～チェックポイントは何?～」	ヴォーリス記念病院 看護部 吉寄 直美 氏	17 名
合計			88 名

○歌声サロン

	参加人数
4 月	38 名
5 月	22 名
6 月	24 名
7 月	26 名
8 月	22 名
9 月	27 名
10 月	30 名
11 月	26 名
12 月	31 名
1 月	23 名
2 月	28 名
3 月	30 名
合計	327 名

○ゴムバンド体操教室（毎週月曜日）

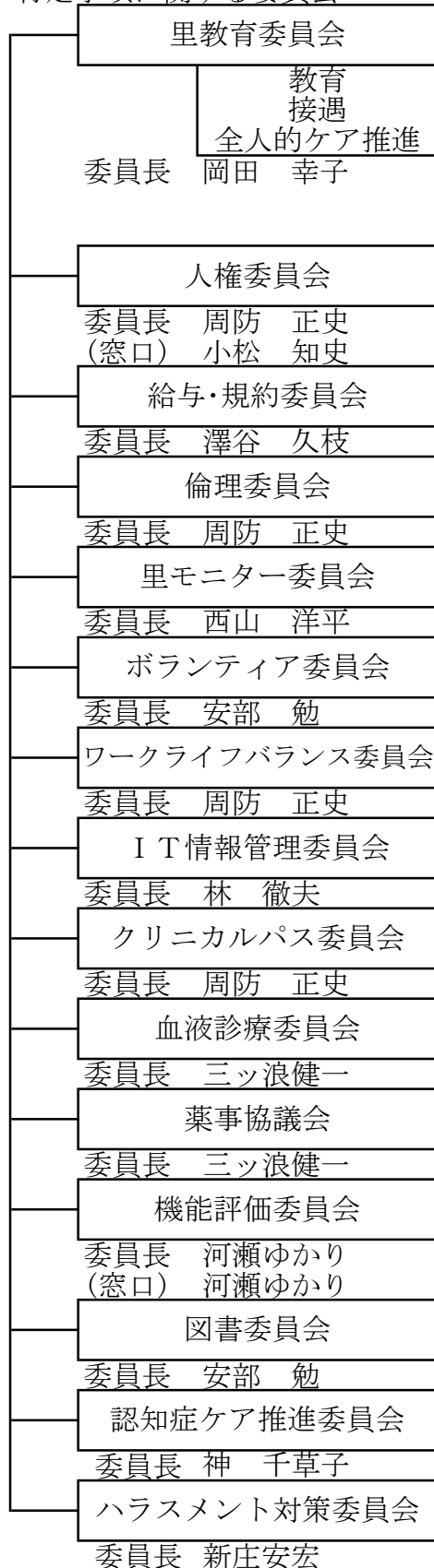
	回数	参加人数
4 月	4 回	41 名
5 月	4 回	47 名
6 月	4 回	36 名
7 月	4 回	32 名
9 月	2 回	13 名
10 月	4 回	38 名
11 月	4 回	43 名
12 月	3 回	26 名
1 月	2 回	18 名
2 月	3 回	31 名
3 月	4 回	37 名
合計	38 回	362 名

委員会報告

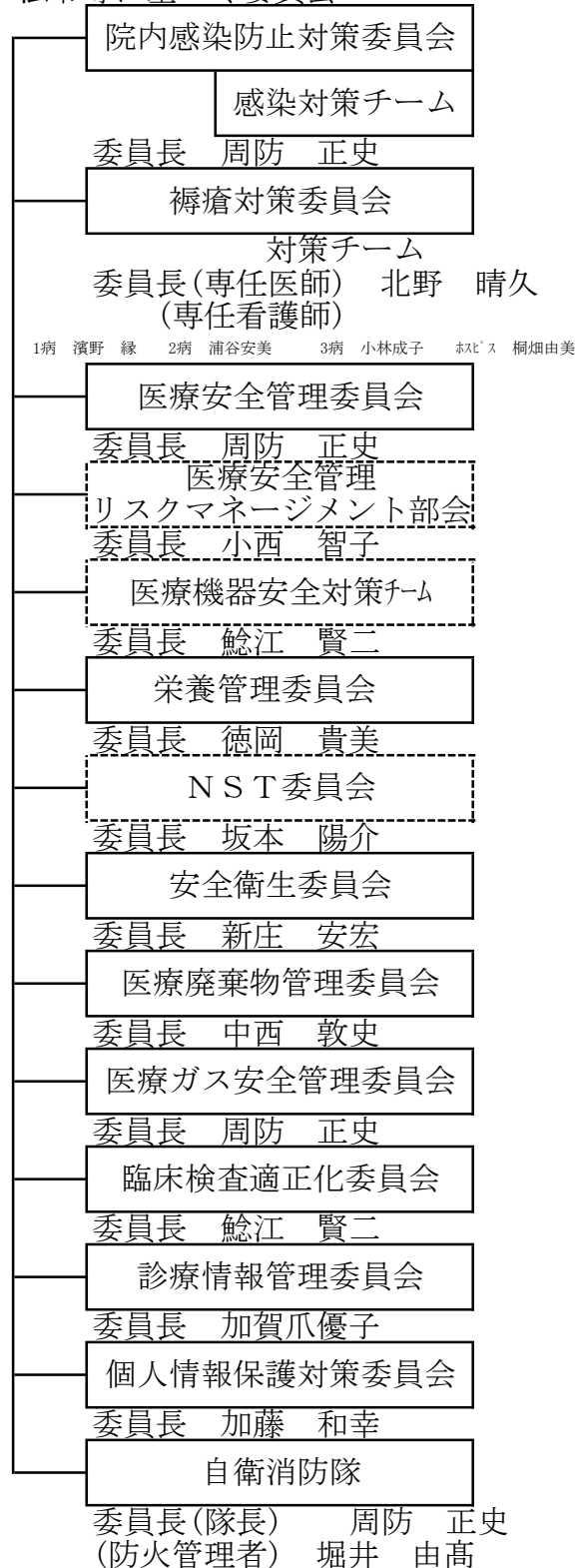
公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

会議・委員会組織図

特定事項に関する委員会



法令等に基づく委員会



公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院

会議・連絡会・委員会組織図



2018 年度報告（平成 30 年度） 業務連絡・業務改善委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	澤谷 久枝
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 在宅サービス部門長 事務部長 看護部（5 名） 検査科（1 名） 放射線科（1 名） 栄養科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 医事課（1 名） 地域医療課（1 名） 在宅療養支援課（1 名） 診療情報管理室（1 名） システム室（1 名） 礼拝堂（1 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 （成果）	業務連絡 ・各部署、委員会からの連絡事項 ・チャリティコンサート(4 月 29 日) ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認 ・人事関係の報告 ・ツッカーハウス 2 階大屋根修復工事についての周知 ・病院機能評価更新受審の準備・当日の対応について(10 月 30・31 日) ・図書室の移動（本館 2 階）。併せて図書の整理を行った。 ・パスワードの変更 年 2 回実行 ・2019 年 4 月 1 日 新院長五月女隆男先生紹介 3 月末周防院長退職 ・働き方改革 年次有給休暇 5 日の取得 2019 年 4 月から義務化の説明 ・100 周年開院式典挙行 5 月 25 日（職員）5 月 27 日（来賓・社友） 業務改善 ・施設周囲の環境整備の実施の継続 ・退院アンケート、“みなさまの声”に対する改善、回答の実行 ・監査委員会（年 2 回）の継続 ・医療懇談会の継続 9 月 ・厚生旅行宿泊 2 班・日帰り 2 班の実施 ・退院アンケート項目変更 ・全職員に喫煙者自己申告を促し、始末書の提出を求めた。受動喫煙と健康増進法を推進するにあたり、敷地内禁煙を徹底する。 ・インフルエンザ、アウトブレイクにつきマスク着用徹底		
課 題	・決定事項の周知と継続 ・改善へ向けた P D C A サイクルの徹底 ・退院アンケート内容の検討（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。 ・継続的改善事項の評価 ・美化活動の継続		

2018 年度報告（平成 30 年度） 給与・規約プロジェクト委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝	副委員長	
委員構成	事務長 事務部長 看護部長 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名） 管理課（1 名） 看護助手（1 名） ヘルパーステーション（1 名）		
活動内容 （成果）	・給与・規約プロジェクト委員会メンバー10 名で活動した。 内容は下記に示すとおり 1. 給与関係 ・夏期賞与（6 月 29 日）・冬期賞与（12 月 22 日）に付いての説明 ・昇給について。昇給総額 910 万円（昨年 810 万円）を実施 ピッチは 450 円(1 等級)600 円(2 等級)700 円(3 等級)800 円(4 等級)850 円(5 等級)9 月より実施 ・病院の介護職員待遇改善のため、平成 31 年 4 月より、介護職手当 5,000 円／月の支給が決定 2. 福利厚生関連 ・宿泊 2 回、日帰り 2 回の職員旅行を実施（10 月～11 月）し、136 名の参加があった。 毎年実施するか否かの議論があり、大きな支出も鑑みて、2～3 年に 1 回に実施という職員会から意見があった。 3. その他 ・敷地内の喫煙について、自己申告を行い、始末書を提出させた旨の報告 ・労働組合（自治労）との状況について 当委員会への出席の可否についての議論を行う。 ・毎月の損益計算書の説明を継続。着目すべき点についてわかりやすく説明を加えた。 ・確定給付企業年金に関する決算報告を行う。		
課 題	・福利厚生についての検討の継続（職員旅行含む） ・昇給額予算の適正化 ・働き方改革の内容に沿った就業規則の見直し（ハラスメント内容の充実）		

2018 年度報告（平成 30 年度） 自衛消防隊			
人員構成			
委員長	周防 正史 (自衛消防隊隊長)	副委員長	堀井 由高 (防火管理者)
委員構成	地区隊長（1 名） 防火管理者（1 名） 副防火管理者（1 名） 事務部（3 名） 診療技術部（1 名） 看護部（6 名） 里統括防火管理者（1 名）		
活動内容 (成果)	・避難・救出・消化器取扱い訓練 開催 ・第一回目 平成 30 年 10 月 2 日 本館 2 階 1 病棟休憩室からの出火想定 災害用のストレッチャー及び車椅子を試用した。 課題：①一部、非常ベル・全館放送が聞こえにくい部署あり、調査する。 ②早めに本部報告を済ませ手持無沙汰にしている職員を、救護（患者避難）に的確に誘導する必要あり。 ・第二回目 平成 31 年 3 月 19 日 別館 3 階 3 病棟サブステーション内カセットコンロからの出火想定 避難患者への声掛け、現場の役割分担も適切だった。 課題：①職員に緊迫感がなく、ダラダラした行動が散見された。 ②夜間の訓練、もっと多人数の避難患者を想定した訓練要 ・初期消火競技会への参加 ・里全体の自衛消防隊組織表、及び病院の非常連絡網の見直しと作成 ・各部署火元責任者の確認と一覧の見直しと作成 ・毎月 1 日を防火・防災デーと定めており、各部署の消防設備を点検し報告するシステムを継続実行		
課 題	・BCP マニュアルの早期策定が必要 ・避難用具、備品関係等の事前準備と定期点検。訓練を通して出てきた課題である避難器具新設の検討 ・夜間・休日の応援体制の周知 ・平成 28 年 4 月 1 日 消防法令が改定に伴うスプリンクラー・消火器具類・火災通報装置等の抜本見直しあり、法令に抵触しない様見直し要		

2018 年度報告（平成 30 年度） 安全衛生委員会			
人員構成			
委員長	新庄 安宏	副委員長	
委員構成	衛生管理者（2 名） 産業医（1 名） 外来師長 健診室 職員会		
活動内容 （成果）	・ 安全衛生委員会に改称した。 ・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診を実施した。 ・ おたふく風邪、麻しんの流行を受け、職員に対して麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体陰性者に対してワクチン接種を推奨した。 ・ ストレスチェックの実施し、所属長対象に組織分析結果報告会を行った。高ストレス者の面談を産業医が行った。 ・ 職員に対し、季節性インフルエンザワクチンの接種を行った。 ・ 院内感染防止対策委員会と共同し、針刺し事故防止に取り組んだ。		
課 題	・ 職員健診、職業感染防止対策、メンタルヘルスケアの内容を改善しながら実施する。 ・ 職員の麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ抗体陰性または低下者のワクチン接種の推奨を継続する。 ・ 職員健診後の再検査受診通知者に対し受診を促し、再検査実施率の向上に努める。 ・ 職場環境改善のため腰痛対策に関する活動について検討する。		

2018 月年度報告（平成 30 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1 名） 管理栄養士（1 名） 調理師（1 名） 看護師（1 名） 言語聴覚士（1 名） 看護補助者（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 行事食について（評価・見直し） 「紅葉会」（紅葉の時期の幕の内弁当）の復活 ・ 嚥下食について（評価・見直し） 「学会分類 2013」に基づく当院の分類表作成 ・ 3 病棟において NST 活動(加算対象)開始 ・ 異物混入防止の対策強化 ・ 病棟毎の食事に対する細やかな対応の実施		
課 題	・ システムトラブルの解消 ・ 食札カスタマイズの変更 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T 加算の継続 ・ 栄養指導件数増加への対策検討 ・ 特別食加算の増加への対策検討 ・ RTH 製剤の種類の見直しとプロトコルの作成 ・ 非常食の充足		

2018 年度報告（平成 30 年度） 臨床検査適正化委員会			
人員構成			
委員長	鯉江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（1 名） 医事課（1 名） 医療情報管理課（1 名） 臨床検査技師（2 名）		
活動内容 （成果）	- 精度管理 外部精度管理：平成 30 年度日本医師会精度管理事業の結果報告 315 満点中、315 点評価 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A 評価 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価 - その他連絡事項と業務改善について ★平成 31 年 3 月 31 日をもって、検査科で実施している超音波骨密度検査は終了になります。4 月から検査は放射線科に移行 ★インフルエンザ検査の検体採取可能な技師は、技師長と土曜日担当の技師のみ。あと技師 1 名が今年の 8 月 25・26 日の厚労省指定講習会に受講申込済みより 8 月 26 日から検査可能予定 ★検査科の心エコー頸エコーの実施は毎週水・木の午前中のみに変更 ★簡易 P S G（携帯型 S A S）検査機器が 4 月から 1 台増加。今後、検査件数の増加にともない機器の追加を検討		
課 題	- 超音波検査の動画サーバー導入について 検査科の生理検査結果を含む超音波検査の動画サーバー導入を検討。現在、見積をとり担当医師から意見を聞いている状態。また血圧脈波検査に新しい機器を検討（フクダ電子(株)バサラ） - ブランチ担当者：病院側と検査センター側の検査ラベルの統一化について、N C S & A と病院と検査センターメディックとの三社で話合いましたが、現状から難しい状態 - 医療情報管理課：ナチュラレット プチですが、針が深く入らなく、主治医がたくさん穿刺針を渡される。→血液がでないのは固定がしっかりしていないことが考えられる。近くにいる外来ナースの方に操作を聞いて頂くか検査科で指導する。		

2018 年度報告（平成 30 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	木下 ゆかり
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 医療安全管理者（1 名） 医療機器安全管理者（1 名） 医薬品安全管理者（1 名） リスクマネジメント部会長（1 名） 医療安全推進者（1 名）		
活動内容 （成果）	1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは医療安全管理者が管理委員会に報告。インシデントの分析検討・改善策の提案・職員への周知 2. 週 1 回の推進カンファレンスの実施（月曜日 15 時 30 分～16 時） 3. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 4. 医療安全情報の院内配信 5 回 5. 院内のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 6. 看護部以外のインシデント、アクシデントレポート提出の推進 7. リスクマネジメント部会参加（部会長） 8. 医療事故への対応。臨時医療安全委員会 17 回開催。対策を立案し再発予防 9. 委員会規定・医療安全管理指針内マニュアル見直し 10. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象者 1 回 テーマ：医療安全の取り組み 4 月 4 日 9：00～9：30 講師：木下 ゆかり 全職員対象 2 回開催 テーマ：医療安全の基本的な考え方と医療安全報告システムの必要性 7 月 3 日（火）14:30～15:30 7 月 13 日（金）17:30～18:30 7 月 20 日（金）17:30～18:30		

	テーマ：「多職種連携による転倒転落防止とコミュニケーションによるエラー防止」 2月22日(金)18:00～18:30 2月26日(火)14:30～15:00 2月28日(木)18:00～18:30 講師：吉寄 直美、池田 尚輝、木下 ゆかり 11. 月1回の院内5Sラウンドとフィードバック 12. ベッドの点検と修理・台帳管理の確認 13. 車いす管理（現状と分析・検討・購入） 14. 医療安全管理加算2申請準備と運用 15. 医療安全管理加算1申請準備 16. 医療安全報告システム内の変更（レベル変更と簡略化・内容分類） 17. 医療安全報告システムの閲覧権限の推進
課 題	・リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・職員の意識向上に向けた研修、教育の実施 ・医療安全管理マニュアルの見直し継続 ・転倒転落重大事故防止に向けた検討 ・コードブルーとALS院内研修の検討 ・医療事故調査制度マニュアルの見直し

2018 年度報告（平成 30 年度） リスクマネジメント部会			
人員構成			
部会長	小西 智子	副委員長	
委員構成	部会長（1 名） 医局（1 名） 薬局（1 名） 栄養、給食科（1 名） 看護部（5 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 診療支援科（1 名） 地域医療課（1 名） リハビリテーション科（1 名） 管理課（1 名）		
活動内容 （成果）	1. 毎月のインシデント報告と集計・困難事例の対策の検討 2. リスマネージャ主催の全体研修 3. 医療安全委員会との連携（委員会の検討内容の伝達） 4. リスクマネジメント研修会の開催と参加の推進 5. 職員への医療安全報告システムへの報告の推進 6. 医療安全報告システム管理についての検討会及び運営 7. リスクマネージャーによる 5S ラウンドの実施		
課 題	・インシデントレポートの報告の推進 ・リスクマネージャーに対する教育 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導など、レベルアップが必要なため各部署における R C A 分析の実施 ・アクシデント報告を迅速に行い、最善の改善策を検討し、再発防止に努める。 ・リスクマネージャーにより、事象レベル 0 の報告を推進する。 ・院内の医療事故報告システムの公開閲覧の推進		

2018 年度報告（平成 29 年度） 里教育委員会			
人員構成			
委員長	岡田 幸子	副委員長	村上 温子
委員構成	病院（8 名） 老健（5 名） 在宅部門（2 名） ケアハウス（1 名）		
活動内容 （成果）	【理念研修】・・・教育担当者 《参加対象者》 里全職員 参加率：86% 《実施日》 2018 年 9 月 27 日 10 月 2・16・19 日 《目的》「ヴォーリズの里理念」についての学びを深め、各部署・個人がアイデンティティを構築できる。 《内容》三ッ浪理事長による講義 テーマ「ヴォーリズの里」理念について再認識しよう 【救急蘇生研修】・・・教育担当者 《参加対象者》 里全職員 参加率：73% 《実施日》 2018 年 11 月 20・22 日 12 月 4 日 月 23 日 《目的》心肺蘇生法（CPR）は医療に携わる者が必ず習得しておくべき基本手技です。里職員全員が蘇生チームの一員として患者の救命に関わることのできる事を目指して、CPR・急変時対応の質の向上を目指す。 《内容》周防院長による講義と演習 【他部署体験】・・・他部署体験担当者 《参加対象者》 各部署中堅職員 《実施日》 2018 年 11 月～2019 年 2 月期間で実施 《目的》当里は「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」として、地域包括ケアシステムにおいて重要な役割を担っている。その中で、チーム医療の重要性が問われている。その為、各部署の役割や業務内容について再認識することを目的とする。		

	【接遇研修】・・・接遇担当 《参加対象者》里全職員 参加率：92% 《実施日》2018年11月7・9・14・16日 《目的》里内利用者全ての方に対する接客力の向上と、組織の内側に対する関係性や関わり方の向上、そして理念を自分自身で胸におとし、組織にプラスの影響をもたらしていく事に対して、トータルに捉える事の出来る人間力を磨き上げること。 《内容》eラーニングによる集合講習会 【がんセミナー】・・・全人的推進委員会 《参加対象者》市民講座 参加人数各2回・3回：27名 《実施日・内容》 第1回 2019年1月26日テーマ「緩和ケア医が目指すホスピスとは」 講師：緩和ケア医師 江頭真理子氏（インフルエンザ流行の為に中止）、 第2回 2019年2月16日テーマ「がん患者を支える生命保険」 講師：住友生命保険相互会社 平石哲也氏 第3回 2019年3月9日（土）テーマ「今を大切に生きる」 講師：ホスピスボランティア 河合直子氏
課 題	・今年度より里教育委員会として新たな教育体制となった。里内委員会企画にて、理念・救急蘇生・他部署体験・接遇研修を開催し、参加率83～92%であった。職員一人一人の学びへの意識の向上が感じられた。しかし、各研修とも集合研修であり、職場の特殊性から全員の参加が困難な状況もある為、OJTとOff-JTを活用しながら企画運営し、よりよい人材育成に繋げて行くことでサービスの質向上を図ることが課題である。 ・がんセミナーでは、市民向け講座として開催しているが、幅広い啓蒙にて、更に多くの参加を目指していく事が課題である。又「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」として、出前講座や市民講座の開催を通じて里の使命を果たしていく事が必要と感じる。

2018 年度報告（平成 30 年度）		褥瘡対策委員会	
人員構成			
委員長	北野 晴久	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（4 名） 管理栄養士（1 名） 薬剤師（1 名） 理学療法士（1 名）		
活動内容 （成果）	月 1 回の定例委員会 委員会メンバーでのグループ回診を月 2 回実施 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供 褥瘡に対する予防・治療の最先端の知識の周知 重症褥瘡に対し、週 2 回のバイオフィルム除去 外科的に、褥瘡根治術を施行開始 局所持続陰圧療法の活用 褥瘡委員の知識向上のため、第 20 回日本褥瘡学会学術集会、第 16 回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会・教育セミナー、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 床ずれセミナーに参加。		
課 題	当院では、入院患者に高齢者が多く、褥瘡が発生しやすい環境である。2018 年度の 1 年間に、203 症例を褥瘡委員会で管理している。そのうち、仙骨部に発症した症例が 61 例あり、その 28%はD3 以上の重症例であった。重症の仙骨部褥瘡の治療には、時間と労力がかかるため、治療だけでなく、マットレスの使い分けや、正しいポジショニングの徹底が必要である。褥瘡の 35%が入院中に発生しており、とくに、踵部の症例 47 例認めたが、その 40%は院内発生であったことから、院内スタッフへの、正しいポジショニングの知識の普及が必要である。 また、褥瘡に関する勉強会を毎年開催しているが、「褥瘡に関する危険因子の評価」や、「DESING-R を用いた褥瘡の評価」を正しく行えていないスタッフも、まだまだ存在する。褥瘡委員が中心となって、正しい知識を広めていく必要がある。 褥瘡委員会のメンバーは、最新の知識を身につけるために、8 月に開催される日本褥瘡学会学術集会に参加する。そこで習得した知識・経験などを、院内に周知し、スタッフの褥瘡に対する知識を向上させ、質の高い医療を提供できるようにする。 また、近年、在宅で発生した褥瘡が重症化して入院加療することが増えており、訪問医・訪問看護師等も褥瘡に対する知識を習得し、正しい知識を身に着けたチームで医療を構築していく必要がある。		

2018 年度報告（平成 30 年度） ボランティア委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	新庄 摩耶子
委員構成	看護師（1 名） 看護助手（2 名） 在宅部（1 名） 薬剤師（1 名） 医事課（1 名） 管理課（1 名） 礼拝堂（1 名） 老健センター（2 名） 委員長・副委員長を含め、10 名体制		
活動内容 （成果）	・ ボランティア募集（新規 5 名の応募）[随時募集に変更] 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ 5 月 27 日 100 周年記念式典 5 名参加 ・ 6 月 16 日（土）ボランティアの集い 開催 ボランティア 18 名、職員 9 名参加 ヴォーリス 100 周年クイズ、ヴォーリスホスピスソング合唱 グループワーク、「里ボランティアの標語をつくろう」等 ・ 11 月 30 日（金）クリスマスリース作り ・ ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・ 暴風警報、特別警報時の休止基準の決定 ・ 連絡方法の手順の決定 ・ 活動の支援と協力体制 日本病院ボランティア総会等での参加時の予算組み		
課 題	・ ボランティアの募集 徐々に高齢化と活動人員の減少が進んでいる。		

2018 年度報告（平成 30 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	奥野 貴史
委員 構成	院内感染防止対策委員：院長 感染管理者（医師） 看護部長 事務長 薬局長 検査技師長 事務部長 院内感染防止対策チーム：病棟（1 名） 外来看護師 リハビリテーション科 栄養科 放射線科 地域医療課 医事課 管理課 薬局 代表各 1 名		
活動 内容 (成果)	- 委員会を毎月開催し、臨床検査科より感染症および耐性菌発生状況、薬局より院内抗生物質使用量、看護部より月次病棟別アルコール手指消毒薬消費数および病棟別感染管理対象者数の報告を行った。 - 近江八幡市立総合医療センター、敬愛病院および当院の合同開催である感染防止合同カンファレンスに 4 回参加。月次アルコール手指消毒剤使用状況等について報告し、院内感染管理加算 2 を算定した。 - ICT チームの院内ラウンドを継続、感染対策の強化に努めた。 - 全部署に「感染症レポート」を不定期に配信し、感染症の流行および予防に関する情報を提供することで職員の啓蒙に努めた。 - 来院者、家族向けに流行している感染症注意喚起ポスターを掲示した。 - 研修会を全職員向けに年 2 回開催した。 - 平成 30 年度院内感染対策講習会（県内）、その他の院内感染防止対策研修会に医師、薬剤師および看護師が参加した。 「病院感染防止対策手順書」を大幅に改訂した。 2017 年 4 月入社職員より、水痘・おたふくかぜ抗体を入社健診項目に追加し、抗体陰性者に対して直ちに摂取勧奨を行った。 - 感染性廃棄物処理容器（段ボール）の蓋をプラ版に再度改良した。 2019 年 1 月に季節性インフルエンザウイルスによるアウトブレイクが発生し、東近江保健所と連携を密にし、リハビリテーションの制限等の施策により早期に終息することができた。		
課 題	- 院内感染防止対策手順書の改訂 - おむつの廃棄分別方法について		

2018 年度報告（平成 30 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	加賀爪 優子	副委員長	
委員構成	医 局（1 名） 事務部（1 名） 看護部（1 名） 診療情報管理士（1 名） 診療技術部（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・診療記録監査について 6 月に第三者による診療記録等の監査をおこなう。 常勤医を対象に個別指導をおこなった。 （結果） 診療記録内容不備や 1 号用紙の記入漏れが少なくなった。 また、医師からの提案で様式やテンプレートの追加、訂正が行われ、充実した診療記録などがなされるようになった。 ・D P C データ提出加算について 滞りなく提出がなされている。		
課 題	・診療記録監査の重要性は理解されているので、実施するタイミングや監査方法を考える時期である。 ・D P C（データ提出加算） 病院内連携を図っていきたい。		

2018 年度報告（平成 30 年度） 病院機能評価委員会			
人員構成			
委員長	河瀬 ゆかり	副委員長	
委員構成	医師 事務長 事務部長 看護部長 診療技術部長 事務部（2 名） 看護部（5 名） 診療技術部（2 名）		
活動内容 （成果）	・ 年度初めに、規程および目標・活動方針の見直しと周知 ・ 7 月 5 日 病院機能評価 受審お悩み相談（大阪） 事務部：澤谷・河瀬 看護部：岡田 診療技術部：酒井 ・ 10 月 13 日、病院機能評価受審フォーラム（ピアザ淡海） 事務部：河瀬 看護部：久城 技術部：宮本 ・ 各部門の自己評価、インジケータの取組み ・ 9 月 28 日、病院医療機能評価受審フォーラム（病院協会主催） 看護部：岡田、久城、増田、湊 ・ 各領域の項目の確認 ・ 10 月 30・31 日 病院機能評価受審 ・ 3rd G：Ver.2.0 一般病院 1（4 回目）、副機能・リハビリテーション病院、副機能：緩和ケア病院の認定をいただく。		
課 題	・ 病院機能評価受審後の期中の確認への取組み ・ 受審後の課題への取組み		

2018 年度報告（平成 30 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	加藤 和幸	副委員長	
委員構成	事務長 看護部長 在宅部（1 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名） 地域医療課（1 名） 診療情報管理室（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 個人情報保護に関する研修会 ・ 内容 「医療施設における個人情報漏えい対策」30 分程度 ～求められる情報セキュリティマネジメントとは～ グループワーク（研修内容を踏まえ、感想や各自で実践していること） 20 分程度 研修会アンケート作成 5 分程度 e ラーニングでの配信講義形式とする。※時間外対象の研修会とする。 ・ 開催日 平成 30 年 9 月 11 日（火）17:30 ～ 18:30 平成 30 年 9 月 12 日（水）14:00 ～ 15:00 平成 30 年 9 月 13 日（木）17:30 ～ 18:30 平成 30 年 9 月 14 日（金）14:00 ～ 15:00 全職員対象として 4 回実施する。 ・ 本会の規定の見直しを行った。 ・ 改正個人情報保護法の全面施行に基づき、各部署における個人情報保護規程およびマニュアル見直し 各部署に見直し依頼をかけ提出いただく。 ・ 職員の個人情報の保護について周知を行った。		
課 題	・ 各部署の改正後のマニュアルの見直し ・ 個人情報保護に関する継続した教育と周知		

2018 年度報告（平成 30 年度） ワークライフバランス委員会			
人員構成			
委員長	久城 亜也子	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護師（2 名） 事務職（1 名） 理学療法士（1 名）		
活動内容 (成果)	・日本看護協会が構成した WLB ワークショップインデックス調査を全職員対象にアンケート調査を実施した。今回、全職員対象にアンケート調査を実施するのは 2 回目であった。アンケートを踏襲し、それを基に活動。それらの項目から各部署の分析をおこなった。特に「あなたの職場や仕事について」の質問に的をしぼりワークライフバランスニュース（新聞ポスター）の作成をおこなった。 全体の評価とすれば、年次有給休暇の取得方法や休暇の要望は、各部署 80%程度満足できているが、反して現在の働き方に満足できているかは、60%の職員が満足できていない現場にあった。また、今の勤務先に長く勤めたいかの問いに関しては、60%以上の職員が思わないとの回答結果であった。また、自身の能力を十分に発揮できているという職員が多い中、給与の妥当性が相反しているという職員の意見も多かった。 ・インデックス調査アンケート・分析をおこない課題は明確化できたが、そこからどう働き方改革に繋げていくか、明確な発案が出来なかった。 次年度以降の取り組みとして懸案事項である。		
課 題	・残業時間や年次有給休暇取得について 他部門との差があることに関しては、各部署独自の風土、または上司と部下の考え方の違いなどがある。これを是正するには相互の教育、啓蒙が肝要であると考え。 ・年次有給休暇取得状況を確認し、各部署間での取得格差を示し、各部署に啓発して行く。 ・残業短縮に向けて、各部署での取り組み後の状況確認を行う。		

2018 年度報告（平成 30 年度） IT 情報管理委員会			
人員構成			
委員長	林 徹夫	副委員長	
委員構成	システム室（1 名） 医師（1 名） 看護部（1 名） 管理課（1 名） 放射線科（1 名） 栄養科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 診療情報管理室（1 名） 診療支援室（1 名） 訪問看護（1 名）		
活動内容 （成果）	- 電子カルテ 機能設定や運用対応 → 設定変更や要望事項への対応 - システムトラブルに対する報告（原因、対策、再発防止策） → 緊急停電時の対応など、状況の説明と対応策の実施 - 機能評価への対応 → システム分野の対応		
課 題	- 電子カルテシステムの円滑な運用 → 運用にできるだけあわせられるようにシステムを整備 - 病院全体のシステムが安定して使える環境の整備 → 不足しているシステム上の環境を整備 - 職員の情報セキュリティに対する意識向上（教育） → 情報漏洩につながる危険性を認知し、扱う情報の重要性を再認識する。		

2018 年度報告（平成 30 年度）認知症ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	神 千草子	副委員長	
委員構成	医師（1 名） 看護部（5 名） 診療技術部（2 名） 事務部（2 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 (成果)	＊委員会開催（年間 11 回 4 月～2 月） 1. 院内認知症ケアマニュアルの活用と認知症ケアの実践の促進 ①各病棟からの認知症患者へのケア報告 ②難渋事例の多職種カンファレンス開催と報告 2. 院内職員対象研修の企画、実施 ①事務部研修（医事課、栄養科、検査科、放射線科、地域医療課、経営企画室、医療情報管理課、礼拝堂、看護補助者） テーマ「認知症について考えよう」 DVD鑑賞後GW 実施日：8 月 20 日（月）8 月 23 日（木） ②専門職研修（看護師、准看護師、ケアワーカー、リハビリ、薬局） テーマ「認知症と脳の関係」 講師：深見医師 実施日：9 月 26 日（水）9 月 28 日（金）10 月 1 日（月） 参加率： 事務部 82% 専門職 81% ③各病棟内研修の推進（1、2、ホスピスで実施） 4. 地域住民に向けての啓蒙活動 ①出前講座（2018 年 11 月 15 日 安土サロンきらく会） ・今年度の職員研修は、昨年の課題を踏まえ専門職と事務部（その他）と内容を変えて実施した。事務職は認知症を身近に感じてもらうこと、専門職は認知症ケアの基礎から治療等について、幅広く学ぶことができた。各病棟でもリンクナース中心に勉強会を実施した。		
課 題	1. 院内研修について、積み上げ式になるよう研修内容を検討する。 2. 最新の情報をスタッフへ伝えられるよう学会への参加も必要 3. 現場においては、リンクナース中心に多職種カンファレンスを実施		

2018 年度報告（平成 30 年度） 100 周年記念誌委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝	副委員長	安部 勉 / 藪 秀実
委員構成	○編纂チーム 事務長 礼拝堂（1 名） 藪 ・芹野（財団本部） 経営企画室（1 名） ヤマプラ（3 名） ○作業チーム 医局（2 名） 在宅部門（1 名） 診療技術部（1 名） 管理課（1 名） 看護部（1 名） 経営企画室（1 名）		
活動内容 （成果）	○編纂チーム 100 周年記念誌発行 8 月発行に向けて最終編集 全体構成についての点検・デザインの調整 記念式典の内容の精査 ○作業チーム 未達成の部署、活動団体へのフォロー ○予算執行 記念誌・記念式典での予算 500 万円 記念誌は、関係外部・各部署 1 冊とし、その他は 2,000 円で販売 財団本部・老健・ケアハウス等に購入依頼		
今後の 継承	100 年の歴史をふり返る時に、その時代その時代に先達たちは何を考え、何を決断してきたのか。そして、未来へ何を托すのか。この 1 冊はヴォーリス記念病院の歩みのバイブルとなる。貴重なこの時をともにした委員のメンバー・本部の資料を纏めて頂いた方・ヤマプラの会長含むスタッフの方々に感謝の意を表す。		



2018 年（平成 30 年）度 年報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリズ記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリズ
ホームヘルパーステーション ヴォーリズ
ヴォーリズ居宅介護支援事業所
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」

発行 令和元年 10 月

発行者 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院

管理者 三ッ浪 健一

院長 五月女 隆男

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492

TEL (0748) 32-5211(代)

FAX (0748) 32-2152

URL <http://www.vories.or.jp>